

インストールおよびアップグレード.....	2
製品名の変更.....	2
インストールおよびアップグレード.....	3
参照データデータベースのインストール後手順.....	3
Informatica のアップグレードサポート.....	4
分割ドメインからのアップグレード.....	4
サポートの変更.....	8
サードパーティライブラリの解消された脆弱性.....	10
10.4.0 の解消された制限事項と実装された拡張要求.....	18
インストールおよびアップグレードの解消された制限事項 (10.4.0)	18
アプリケーションサービスの解消された制限事項 (10.4.0)	19
Business Glossary で解消された制限事項 (10.4.0)	20
Data Engineering Integration で解消された制限事項 (10.4.0)	20
Data Engineering Streaming で解消された制限事項と実装された拡張要求 (10.4.0)	23
Enterprise Data Catalog で解消された制限事項 (10.4.0)	24
Enterprise Data Preparation で解消された制限事項と実装された拡張要求 (10.4.0)	28
Informatica コネクタツールキットの解消された制限事項 (10.4.0)	29
マッピングおよびワークフローの解消された制限事項 (10.4.0)	29
Metadata Manager の解消された制限事項と実装された拡張 (10.4.0)	29
PowerCenter の解消された制限事項 (10.4.0)	30
プロファイルおよびスコアカードの解消された制限事項 (10.4.0)	31
ルール仕様の解消された制限事項 (10.4.0)	32
セキュリティの解消された制限事項 (10.4.0)	32
サードパーティ製品で解消された制限事項 (10.4.0)	33
10.4.0 の既知の制限事項.....	34
Data Engineering Integration の既知の制限事項 (10.4.0)	34
Data Engineering Streaming の既知の制限事項 (10.4.0)	37
ドメインの既知の制限事項 (10.4.0)	37
Enterprise Data Catalog の既知の制限事項 (10.4.0)	37
プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項 (10.4.0)	41
Enterprise Data Preparation の既知の制限事項 (10.4.0)	41

サードパーティ製品に関する既知の制限事項 (10.4.0)	41
累積的な既知の制限事項.....	42
アプリケーションサービスの既知の制限事項 (累積)	42
Business Glossary の既知の制限事項 (累積)	43
Data Engineering Integration の既知の制限事項 (累積)	44
Data Engineering Streaming の既知の制限事項 (累積)	44
Enterprise Data Catalog の既知の制限事項 (累積)	45
Enterprise Data Preparation の既知の制限事項 (累積)	47
Informatica コネクタツールキットの既知の制限事項 (累積)	48
マッピングおよびワークフローの既知の制限事項 (累積)	48
Metadata Manager の既知の制限事項 (累積)	49
プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項 (累積)	50
サードパーティ製品に関する既知の制限事項 (累積)	50
10.4.0 に統合された緊急バグ修正.....	55
Informatica グローバルカスタマサポート.....	55

Informatica(R) リリースノートで、バージョン 10.4.0 に関連する既知の制限事項および解消された制限事項をご確認ください。このリリースノートには、アップグレードパス、EBF、およびテクニカルプレビューや保留事項など限定サポートに関する情報も記載されています。

インストールおよびアップグレード

製品名の変更

バージョン 10.4.0 では、一部の名前の変更が行われました。

Big Data 製品ファミリの名前が Data Engineering に変更されました。次のように製品名が変更されています。

- Big Data Management から Data Engineering Integration。
- Big Data Quality から Data Engineering Quality。
- Big Data Streaming から Data Engineering Streaming。
- Big Data Masking から Data Engineering Masking。

Enterprise Data Catalog および Enterprise Data Preparation は Data Catalog 製品ファミリに属します。

インストールおよびアップグレード

バージョン 10.4.0 では、Informatica インストーラに以下の変更点があります。

- 10.4.0 インストーラを実行して、Data Engineering、Data Catalog、および従来の製品をインストールできます。従来の製品は Data Engineering および Data Catalog 製品と同じドメインにインストールできますが、従来の製品は別のドメインにインストールすることをお勧めします。
- 10.4.0 インストーラを実行して、Data Engineering、Data Catalog、および従来の製品をアップグレードできます。
- ドメインを作成する際、PowerCenter リポジトリサービスと PowerCenter 統合サービスを作成することを選択できます。

バージョン 10.4.0 では、Informatica のアップグレードに以下の変更点があります。

- 検索サービスで新しいインデックスフォルダが作成され、検索オブジェクトが再インデックス処理されます。アップグレード後に再インデックス処理を実行する必要はありません。

参照データデータベースのインストール後手順

Spark エンジンで参照テーブルを使用するマッピングを実行するには、インストールまたはアップグレード後に次の手順を実行します。

1. 参照データデータベースのために、JDBC 接続をサポートするファイルをダウンロードします。
2. データ統合サービスでカスタムプロパティを設定します。

注: バージョン 10.2.2 Service Pack 1 またはバージョン 10.2.2 HotFix 1 からアップグレードする場合、この手順を実行する必要はありません。

データ統合サービスで使用する参照データデータベースを見つけるには、ドメインがデータ統合サービスに関連付けるコンテンツ管理サービスを調べます。コンテンツ管理サービスは、参照データデータベース接続を識別します。(BDM-17909)

JDBC .JAR ファイルのダウンロード

参照データデータベースで、JDBC 接続をサポートするファイルをダウンロードします。このファイルを Informatica サービスマシンにコピーします。

1. 使用する参照データデータベースに対応する JDBC .jar ファイルを取得します。このファイルは、データベースベンダの Web サイトからダウンロードできます。
2. ダウンロードしたファイルを、次の場所にコピーします: <INFA_HOME>/externaljdbcjars

データ統合サービスでのカスタムプロパティの設定

データ統合サービスでカスタムプロパティを設定します。参照データデータベースのデータベースタイプに関連するカスタムプロパティを追加します。

1. Administrator ツールを開き、ドメインナビゲータでデータ統合サービスを選択します。
2. **【プロパティ】** タブで、**【カスタムプロパティ】** オプションを探します。
3. **【カスタムプロパティの編集】** ダイアログボックスを開きます。
4. 参照データデータベースのカスタムプロパティを作成します。

次の表で、各データベースタイプに設定できるカスタムプロパティについて説明します。

データベースタイプ	プロパティ名	プロパティ値
IBM DB2	ExecutionContextOptions.SparkRefTableHadoopConnectorArgs	--driver com.ibm.db2.jcc.DB2Driver --connect jdbc:db2://[db_hostname]:[port]/[database_name]
Microsoft SQL Server	ExecutionContextOptions.SparkRefTableHadoopConnectorArgs	--connect jdbc:sqlserver://[db_hostname];databaseName=[database_name]
Oracle	ExecutionContextOptions.SparkRefTableHadoopConnectorArgs	--connect jdbc:oracle:thin:@[db_hostname]:[port]:[sid]

5. データ統合サービスをリサイクルします。

Informatica のアップグレードサポート

Informatica 10.0、10.1、10.1.1、10.2、10.2.1 および 10.2.2 から直接 10.4.0 にアップグレードできません。

現在インストールされている製品バージョンを Informatica 10.4.0 にアップグレードできない場合は、まずサポートされているバージョンにアップグレードする必要があります。現在インストールされている Informatica 製品のバージョンを特定するには、Informatica Administrator のヘッダ領域で **【ヘルプ】 > 【Informatica Administrator について】** をクリックします。

注: サポート EOL ステートメントの詳細については、Informatica グローバルカスタマーサポートに問い合わせるか、<https://network.informatica.com/docs/DOC-16182> を参照してください。

分割ドメインからのアップグレード

分割ドメインからアップグレードする場合、アップグレードを実行する前に、検証チェックをスキップするように環境変数を設定する必要があります。

バージョン 10.1.1 HotFix 2 または 10.2 HotFix 2 からのアップグレード

アップグレードする際は、SKIP_BINARIESVALIDATION_CHECK 環境変数を true に設定して、プラグイン検証を無効にします。

ドメインに Enterprise Data Preparation または Enterprise Data Catalog プラグインが含まれる場合、モデルリポジトリサービスの起動に失敗します。Enterprise Data Preparation または Enterprise Data Catalog でドメインを分割する場合、プラグインは分割したドメインに残ります。10.4.0 にアップグレードしようとする、次のバージョン不一致エラーでモデルリポジトリサービスが失敗します。

Stopping the service...

Informatica does not support upgrade from <version> to 10.4.0.
For more information about the supported upgrade paths, see the Product Availability Matrix on Informatica Network.

Select a choice

* 1->OK

(Default: 1):

ドメインにバージョンの不一致があることを示すプラグイン検証エラーが発生して、モデルリポジトリサービスは失敗します。

10.1.1、10.2、10.2.1、または 10.2.2 からのアップグレード

Hotfix またはサービスパックを含む 10.1.1、10.2、10.2.1、または 10.2.2 ドメインに Enterprise Data Preparation または Enterprise Data Catalog が含まれる場合、モデルリポジトリサービスの起動に失敗します。ドメインの分割後、Enterprise Data Preparation または Enterprise Data Catalog プラグインは分割したドメインに残ります。10.4.0 ドメインにアップグレードすると、モデルリポジトリサービスは失敗し、インストーラに次の Enterprise Data Catalog または Enterprise Data Preparation アップグレードプロンプトのみが表示されます。

Select one of the following options to upgrade to version 10.4:

*1->Upgrade Informatica domain services and Enterprise Data Catalog binaries.

2->Upgrade Informatica domain services and the binaries for Enterprise Data Catalog and Enterprise Data Preparation. When you choose this option, the installer installs Enterprise Data Preparation binaries if they do not exist.

To complete the service upgrades, you need to run the upgrade wizard through the Administrator tool.

(Default:1):

この問題を解決するには、環境変数 SKIP_BINARIESVALIDATION_CHECK を true に設定する必要があります。

ドメインのリストアまたはモデルリポジトリサービスの有効化

次のいずれかの条件に該当する場合、ドメインとモデルリポジトリサービスは失敗します。

Enterprise Data Preparation または Enterprise Data Catalog を含むドメインをバックアップする場合。Enterprise Data Preparation または Enterprise Data Catalog を含まないターゲットドメインにリストアすると、ドメインのリストアは失敗します。

Enterprise Data Preparation または Enterprise Data Catalog プラグインを含むドメインで、モデルリポジトリサービスを有効化する場合。Enterprise Data Preparation または Enterprise Data Catalog を含まないターゲットドメインで、同じデータベースを使用してモデルリポジトリサービスを有効すると、モデルリポジトリサービスは失敗します。

ドメインのリストアの実行またはモデルリポジトリサービスの有効化を成功させるには、次の手順を実行します。

1. ドメインのシャットダウン。
2. Informatica サービスのインストールディレクトリから Enterprise Data Catalog の対応する <INFA_HOME>ディレクトリに、次の製品ファイルをコピーします。

ldmconfig.xml

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/pluginjars/plugins/conf/ldmconfig.xml	<INFA_HOME>/plugins/conf/ldmconfig.xml

eicconfig.xml

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/pluginjars/ plugins/conf/eicconfig.xml	<INFA_HOME>/plugins/conf/eicconfig.xml

com.infa.products.ldm.adminplugins.ldm-service

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/ pluginjars/plugins/acplugins/ com.infa.products.ldm.adminplugins.ldm-service	<INFA_HOME>/plugins/acplugins/ com.infa.products.ldm.adminplugins.ldm- service

com.infa.products.eic.adminplugins.eic-service

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/ pluginjars/plugins/acplugins/ com.infa.products.eic.adminplugins.eic-service	<INFA_HOME>/plugins/acplugins/ com.infa.products.eic.adminplugins.eic- service

com.infa.products.ihp.adminplugins.ihsservice

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/pluginjars/ plugins/acplugins/ com.infa.products.ihp.adminplugins.ihsservice	<INFA_HOME>/plugins/acplugins/ com.infa.products.ihp.adminplugins. ihsservice

com.infa.products.ldm.config-persistence.models-persist

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/ pluginjars/plugins/dynamic/ com.infa.products.ldm.config-persistence.models- persist	<INFA_HOME>/plugins/dynamic/ com.infa.products.ldm.config- persistence.models-persist

com.infa.products.eic.config-persistence.models-persist.mrs.registration

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/ pluginjars/plugins/dynamic/ com.infa.products.ldm.config-persistence.models- persist.mrs.registration	<INFA_HOME>/plugins/dynamic/ com.infa.products.ldm.config- persistence.models-persist.mrs.registration

com.infa.products.eic.config-persistence.models-persist

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/ pluginjars/plugins/dynamic/ com.infa.products.eic.config-persistence.models- persist	<INFA_HOME>/plugins/dynamic/ com.infa.products.eic.config- persistence.models-persist

com.infa.products.eic.config-persistence.models-persist.mrs.registration

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/ pluginjars/plugins/dynamic/ com.infa.products.eic.config-persistence.models- persist.mrs.registration	<INFA_HOME>/plugins/dynamic/ com.infa.products.eic.config- persistence.models-persist.mrs.registration

com.infa.products.ldm.service.isp.plugin.jar

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/ pluginjars/services/ISPPlugins/ com.infa.products.ldm.service.isp.plugin.jar	<INFA_HOME>/services/ISPPlugins/ com.infa.products.ldm.service.isp.plugin.jar

com.infa.products.ihs.isp.plugin.jar

コピー元パス	貼り付け先パス
[Informatica installation directory]/ pluginjars/services/ISPPlugins/ com.infa.products.ihs.isp.plugin.jar	<INFA_HOME>/services/ISPPlugins/ com.infa.products.ihs.isp.plugin.jar

Informatica サービスのインストールディレクトリから Enterprise Data Preparation の対応する <INFA_HOME>ディレクトリに、次の製品ファイルをコピーします。

フォルダ名	コピー元パス	貼り付け先パス
プラグイン	[Informatica installation directory]/ pluginjars/plugins	<INFA_HOME>/plugins
サービス	[Informatica installation directory]/ pluginjars/services	<INFA_HOME>/services

3. 次のコマンドを使用して、ターゲットドメインにプラグインを登録します。

```
infasetup validateAndRegisterFeature -ff /<INFA_HOME>/plugins/conf/  
datalake.xml -up false
```

```
infasetup validateAndRegisterFeature -ff /<INFA_HOME>/plugins/conf/  
eicconfig.xml -up false
```



```
infasetup validateAndRegisterFeature -ff /<INFA_HOME>/plugins/conf/  
ldmconfig.xml -up false
```

4. 次の場所から作業ディレクトリを削除します。
<INFA_HOME>/services/work_dir/ModelRepositoryService
5. ドメインを起動します。

サポートの変更

この節では、バージョン 10.4.0 のサポートの変更点について説明します。

テクニカルプレビューサポート

テクニカルプレビューが開始

バージョン 10.4.0 では、Informatica にテクニカルプレビュー用の次の機能が含まれています。

ブロックチェーンへの接続

Data Engineering Integration の場合、ブロックチェーンに接続して、Spark エンジンで実行するマッピング内のブロックチェーンのソースとターゲットを使用することができます。

マッピングターゲットのストリーミングとしての Databricks 差分テーブル

Data Engineering Streaming の場合、ストリーミングデータの取り込みにストリーミングマッピングのターゲットとして Databricks 差分テーブルを使用できます。

動的ストリーミングマッピング

動的ストリーミングマッピングを設定して、Confluent スキーマレジストリで定義するパラメータとルールを基に、実行時に Kafka のソースとターゲットを変更することができます。

インテリジェント構造モデルでの HL7 入力

Intelligent Structure Discovery で HL7 入力を処理できます。

Databricks での Python トランスフォーメーション

Data Engineering Integration の場合、Databricks Spark エンジンで実行するために設定されるマッピングに Python トランスフォーメーションを含めることができます。

ストリーミングマッピングのターゲットとしての Snowflake

Data Engineering Streaming の場合、Snowflake にデータを書き込むためにストリーミングマッピングにターゲットとして Snowflake を設定できます。

評価目的でのテクニカルプレビュー機能はサポートされていますが、保証対象外で本番環境には対応していません。非本番環境でのみ使用することをお勧めします。Informatica では、本番環境用に次のリリースでプレビュー機能を導入するつもりですが、市場や技術的な状況の変化に応じて導入しない場合もあります。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

テクニカルプレビューが昇格

バージョン 10.4.0 では、次の機能がテクニカルプレビューから昇格されます。

階層データのプレビュー

Data Engineering Integration の場合、Amazon EMR、Cloudera CDH、および Hortonworks HDP で実行するために設定されるマッピング用の Developer tool からマッピング内の階層データをプレビ

ユーできます。Azure HDInsight および MapR で実行するために設定されるマッピング内の階層データのプレビューは、テクニカルプレビューで引き続き使用できます。

PowerExchange for Amazon S3

Data Engineering Integration の場合、データオブジェクトをインポートするときにインテリジェント構造モデルを使用できます。

PowerExchange for Microsoft Azure Cosmos DB SQL API

Data Engineering Integration の場合、Azure Databricks 環境でマッピングを開発および実行できます。

PowerExchange for Microsoft Azure SQL Data Warehouse

Data Engineering Integration の場合、次の機能を使用できます。

- 動的マッピングを作成および実行する。
- ODBC 接続を Microsoft Azure SQL Data Warehouse データベースへの接続に使用するとき完全にプッシュダウンの最適化を使用する。

SSL 対応 Kafka 接続

Data Engineering Streaming の場合、ストリーミングマッピングに SSL 対応 Kafka 接続を使用できます。

サポートの終了

バージョン 10.4.0 では、Informatica は Solaris のサポートを終了しました。Solaris を使用している場合は、サポート対象のオペレーティングシステムにアップグレードすることをお勧めします。

サポート対象のオペレーティングシステムへのアップグレード方法に関する詳細については、Informatica 10.4.0 アップグレードガイドを参照してください。サポート対象のオペレーティングシステムの詳細については、Informatica Network の製品可用性マトリックスを参照してください。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>

保留

この節では、バージョン 10.4.0 の保留の変更点について説明します。

保留の昇格

バージョン 10.4.0 では、以下の機能は保留されました。

- ストリーミングマッピングでのデータマスキングトランスフォーメーション
- Kerberos レalm間認証。
- ストリーミングジョブの統計情報の監視

ディストリビューションのサポート

Hadoop 環境

PowerCenter および Data Engineering 製品は、次の Hadoop ディストリビューションに接続できます。

- Amazon EMR
- Azure HDInsight
- Azure Databricks
- Cloudera CDH
- Hortonworks HDP
- MapR

Databricks 環境

Data Engineering 製品は、次の Azure Databricks および AWS Databricks に接続できます。

各リリースで、非ネイティブディストリビューションおよびディストリビューションバージョンのサポートが追加、保留、削除される可能性があります。将来のリリースで保留していたバージョンのサポートを再開する可能性があります。サポートされるバージョンの最新リストを確認するには、次の Informatica カスタマポータル製品可用性マトリックスを参照してください。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>

サードパーティライブラリの解消された脆弱性

Informatica は、いくつかのサードパーティ製ライブラリを最新バージョンにアップグレードしました。

バージョン 10.4.0 は、次の CVE に対して脆弱ではありません。

Apache Groovy

フォルダ	/services/MetadataManagerService/mmapps/mm.war/WEB-INF/lib/
解決済み脆弱性	CVE-2016-6814
前のバージョン	2.4.4
アップグレードされたバージョン	2.4.8

Apache Solr Core

フォルダ	/source/infa_core_module/isp/bin/plugins/tools/eclipse/plugins /source/infa_core_module/services/AdministratorConsole/webapps/monitoring/WEB-INF/eclipse/plugins /source/infa_core_module/services/AnalystService/analyst/WEB-INF/eclipse/plugins /source/infa_core_module/services/SearchService/search-symphony/WEB-INF/lib /services/ModelRepositoryService/solr-core-4.3.0
解決済み脆弱性	CVE-2013-6397 CVE-2013-6408 CVE-2014-3628 CVE-2015-8795 CVE-2015-8796 CVE-2015-8797 CVE-2017-3163 CVE-2019-12401
前のバージョン	4.3.0
アップグレードされたバージョン	6.4.2

Apache Xalan (Java)

フォルダ	/isp/bin/plugins/tools/eclipse/plugins /services/MetadataManagerService/utilities/mmLineageMigrator/lib/ /services/MetadataManagerService/utilities/mmrepocmd/lib /services/MetadataManagerService/utilities/mmxconpluginutil/lib /services/MetadataManagerService/utilities/mmxconpluginutil/lib /services/MetadataManagerService/utilities/mmcmd/lib /services/shared/jars/thirdparty /services/SearchService/search-symphony/WEB-INF/lib /services/AdministratorConsole/webapps/monitoring/WEB-INF/eclipse/plugins
解決済み脆弱性	CVE-2014-0107
前のバージョン	2.7.1
アップグレードされたバージョン	2.7.2

Apache ZooKeeper

フォルダ	/source/infa_core_module/connectors/thirdparty/infa.kafka/common/ /services/ModelRepositoryService/ /services/SearchService/search-symphony/WEB-INF/lib/ /services/AnalystService/analyst/WEB-INF/eclipse/plugins/ /services/AdministratorConsole/webapps/monitoring/WEB-INF/eclipse/plugins/ /services/shared/jars/thirdparty/
解決済み脆弱性	CVE-2016-5017 CVE-2017-5637 CVE-2018-8012
前のバージョン	3.4.5
アップグレードされたバージョン	3.4.10

Bouncy Castle

フォルダ	/source/infa_core_module/connectors/thirdparty/ informatica.azureeventhub/common/ /source/infa_core_module/services/SearchService/search-symphony/WEB-INF/lib/ /source/infa_core_module/services/shared/jars/thirdparty/ /services/shared/jars/thirdparty/com.informatica.datadirect-dwsqlserver-6.0.0.jar/com/informatica/sqlserverutil/externals /services/AdministratorConsole/webapps/monitoring.war/WEB-INF/eclipse/plugins/dwsybase-5.1.4_G.jar/com/informatica/sybaseutil/externals /services/AnalystService/analyst.war/WEB-INF/eclipse/plugins/dwsybase-5.1.4_G.jar/com/informatica/sybaseutil/externals /services/AdministratorConsole/webapps/monitoring.war/WEB-INF/eclipse/plugins/dwsqlserver-6.0.0.jar/com/informatica/sqlserverutil/externals /services/AnalystService/analyst.war/WEB-INF/eclipse/plugins/dwsqlserver-6.0.0.jar/com/informatica/sqlserverutil/externals /services/shared/jars/thirdparty/com.informatica.datadirect-dwsybase-5.1.4_G.jar/com/informatica/sybaseutil/externals /services/shared/spark/lib_spark_2.0.1_hadoop_2.6.0/
解決済み脆弱性	CVE-2018-1000613 CVE-2018-1000180 CVE-2016-1000352 CVE-2016-1000346 CVE-2016-1000345 CVE-2016-1000344 CVE-2016-1000343 CVE-2016-1000342 CVE-2016-1000341 CVE-2016-1000340 CVE-2016-1000339 CVE-2016-1000338
前のバージョン	1.54
アップグレードされたバージョン	1.60.0

cURL

フォルダ	/source/infa_core_module.7z/isp/bin/plugins/xrf/bin/libpmscurl.a
解決済み脆弱性	CVE-2019-3822 CVE-2016-8618 CVE-2018-16842 CVE-2018-14618 CVE-2018-16839 CVE-2018-16890 CVE-2018-1000301 CVE-2018-1000122 CVE-2018-1000121 CVE-2017-8817 CVE-2017-8816 CVE-2017-1000257 CVE-2017-1000254 CVE-2016-8617 CVE-2016-8618 CVE-2016-8619 CVE-2016-8620 CVE-2016-8621 CVE-2016-8624 CVE-2016-8625 CVE-2016-7167 CVE-2016-7141 CVE-2016-5419 CVE-2016-5420 CVE-2016-5421 CVE-2015-3144 CVE-2016-8623 CVE-2015-3145 CVE-2019-3823 CVE-2018-1000007 CVE-2016-9586 CVE-2016-8615 CVE-2016-8622 CVE-2016-0755
前のバージョン	7.37.1
アップグレードされたバージョン	7.37.1 でセキュリティパッチを使用して再ビルド

Guava

フォルダ	/services/AdministratorConsole/webapps/administrator.war/WEB-INF/lib/ /services/AdministratorConsole/webapps/monitoring.war/WEB-INF/eclipse/plugins/ /services/ModelRepositoryService/ /services/shared/jars/thirdparty/ /services/AnalystService/analyst/WEB-INF/eclipse/plugins /services/SearchService/search-symphony/WEB-INF/lib
解決済み脆弱性	CVE-2018-10237
前のバージョン	18.0.0
アップグレードされたバージョン	24.1.1

Jackson Databind

フォルダ	/services/RestOperationsHub/RestOperationsHub/WEB-INF/lib/ /services/AnalystService/analyst/WEB-INF/eclipse/plugins/ /source/infa_core_module/services/MetadataManagerService/utilities/mmrepocmd/lib/ /source/infa_core_module/services/MetadataManagerService/utilities/mmxconpluginutil/lib /source/infa_core_module/services/MetadataManagerService/utilities/mmcmd/lib /source/infa_core_module/services/shared/jars/thirdparty /source/infa_core_module/isp/bin/plugins/tools/eclipse/plugins /source/infa_core_module/connectors/thirdparty/infa.amazonkinesis/common/ /source/infa_core_module/connectors/thirdparty/informatica.azuredocumentdb/common/ /source/infa_core_module/connectors/thirdparty/informatica.azureeventhub/common/ /source/infa_core_module/connectors/thirdparty/infa.amazons3/common/
解決済み脆弱性	CVE-2019-14439 CVE-2019-14379 CVE-2019-12384 CVE-2019-12814 CVE-2019-12086 CVE-2018-19362 CVE-2018-19361 CVE-2018-19360 CVE-2018-1000873
前のバージョン	2.9.7
アップグレードされたバージョン	2.9.9.2

Jetty: Java ベース HTTP、サーブレット、SPDY、WebSocket サーバー

フォルダ	/source/infra_core_module/connectors/thirdparty/ infra.googleanalytics/common/* /source/infra_core_module/services/shared/jars/thirdparty/* /services/SearchService/search-symphony.war/WEB-INF/lib/*
解決済み脆弱性	CVE-2018-12538 CVE-2018-12536 CVE-2017-7658 CVE-2017-7657 CVE-2017-7656 CVE-2017-9735
前のバージョン	9.3.9
アップグレードされたバージョン	9.4.14

LibSSH2

フォルダ	
解決済み脆弱性	CVE-2015-1782 CVE-2016-0787 CVE-2019-3859 CVE-2019-3862 CVE-2019-3855 CVE-2019-3858 CVE-2019-3863 CVE-2019-3856 CVE-2019-3860 CVE-2019-3861
前のバージョン	1.2.5
アップグレードされたバージョン	1.8.2

OpenSSL

フォルダ	
解決済み脆弱性	CVE-2018-0734 CVE-2019-1559 CVE-2018-5407
前のバージョン	1.0.2n
アップグレードされたバージョン	1.0.2s

PCRE

フォルダ	/source/infa_core_module.7z/isp/bin/plugins/xrf/bin/libpcre.a /services/shared/bin/libpcre.a
解決済み脆弱性	CVE-2015-2328 CVE-2015-3217
前のバージョン	7.8
アップグレードされたバージョン	8.42

Restlet

フォルダ	/source/infa_core_module/services/ModelRepositoryService/*
解決済み脆弱性	CVE-2013-4221 CVE-2013-4271 CVE-2017-14868 CVE-2017-14949
前のバージョン	2.1.1
アップグレードされたバージョン	2.3.12

Spring Framework

フォルダ	/isp/bin/plugins/tools/eclipse/plugins/*
解決済み脆弱性	CVE-2018-1199 CVE-2018-1270 CVE-2018-1271 CVE-2018-1272 CVE-2018-1275 CVE-2018-1257 CVE-2018-11039 CVE-2018-11040 CVE-2018-15756
前のバージョン	4.3.11
アップグレードされたバージョン	4.3.22

Spring Framework

フォルダ	/services/shared/jars/thirdparty/* /tools/jdbcdrv/* /server/cci/plugins/infa/* /plugins/infa/* /services/SearchService/search-symphony/WEB-INF/lib/* /services/AdministratorConsole/webapps/monitoring.war/WEB-INF/eclipse/plugins/spring-aop-4.3.17.RELEASE.jar /services/RestOperationsHub/RestOperationsHub/WEB-INF/lib/* /services/AnalystService/analyst/WEB-INF/eclipse/plugins/*
解決済み脆弱性	CVE-2018-1199 CVE-2018-1270 CVE-2018-1271 CVE-2018-1272 CVE-2018-1275 CVE-2018-1257 CVE-2018-11039 CVE-2018-11040 CVE-2018-15756
前のバージョン	4.3.11
アップグレードされたバージョン	4.3.25

Spring Security

フォルダ	/source/infa_core_module/services/shared/jars/thirdparty/* /source/infa_core_module/services/SearchService/search-symphony/WEB-INF/lib/*
解決済み脆弱性	CVE-2018-1199 CVE-2018-1258 CVE-2019-3795 CVE-2019-11272
前のバージョン	4.2.3
アップグレードされたバージョン	4.2.11

10.4.0 の解消された制限事項と実装された拡張要求

インストールおよびアップグレードの解消された制限事項（10.4.0）

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
PLAT-25144	RHEL 7.7 でインストール前 (i10PI) システムチェックツールを実行すると、オペレーティングシステムの非互換に関する間違った警告が表示される。
PLAT-24232	INFA_CLIENT_RESILIENCE_TIMEOUT 環境変数を設定すると、ドメインの起動に失敗する。

アプリケーションサービスの解消された制限事項 (10.4.0)

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
PLAT-24548	スケジューラサービスからモデルリポジトリサービスへの接続に失敗したときに、関連するモデルリポジトリサービスについてのログイベントをドメインまたはスケジューラサービスログで入手できない。
MRS-2089	エクスポート XML ファイル内のマッピング、ワークフロー、またはアプリケーションがパラメータを持つ場合、 <code>infacmd xrf generateReadableViewXML</code> コマンドで読み取り可能な XML ファイルを生成できない。
MRS-1992	バージョン 10.2.0 からバージョン 10.2.2 にアップグレードした後、検証環境として Spark を選択して、 <code>mrs enableMappingValidationEnvironment</code> コマンドを実行すると、次のメッセージが表示される。 [0]個のオブジェクトがフィルタに一致しました。
MRS-1943	モデルリポジトリサービスのバックアップおよびリストア操作が、次のエラーで失敗する。 指定された値が、float データ型の有効なインスタンスではない。
MRS-1864	モデルリポジトリで MongoDB、Cassandra、またはリレーショナルデータベースが使用されている場合、モデルリポジトリで <code>MRX_TX_SOURCES</code> クエリを実行すると、間違っ た情報が表示される。リレーショナルデータベースには、IBM DB2、Microsoft SQL Server、MySQL、Oracle などがある。
MRS-1861	モデルリポジトリサービスでメモリ不足エラーが表示されることがある。

以下の表に実装された拡張要求を示します。

バグ	説明
MRS-47	次のカスタムプロパティで、ディザスタリカバリ中にバックアップモデルリポジトリが起動するまでの待機時間を秒単位で構成できる。 <code>WAIT_SECONDS_BEFORE_FORCE_START</code>
MRS-1316	<code>listPermissionOnProject</code> コマンドを実行して、複数のプロジェクトに対するグループおよびユーザーの権限をすべてリストできる。

Business Glossary で解消された制限事項 (10.4.0)

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
BG-1851	次の条件が当てはまる場合、用語集のエクスポートが失敗する。 1. カテゴリ内に複数のカテゴリと用語を含む用語集を作成する。 2. [ライブラリ] ワークスペースから、エクスポートする用語集を選択する。 3. エクスポートウィザードの【設定の指定】ページで【監査履歴を含める】オプションを選択する。 4. エクスポートウィザードの【アセットの選択】ページでカテゴリのリストから 1 つのカテゴリを選択する。
BG-2202	ビジネス用語のルール仕様のコンテキストフィールドを編集できない。
BG-1600	【履歴の表示】ウィンドウに、ウィンドウの【From】カラムと【To】カラムでビジネス用語に加えた変更が表示されない。

Data Engineering Integration で解消された制限事項 (10.4.0)

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
OCON-19697	Hive 接続を使用して、接続文字列で指定されているスキーマ名とは異なるスキーマ名で物理データオブジェクトを作成すると、マッピング結果の一貫性がない可能性があるため、Hive ソースからデータを読み取るカスタムクエリを使用できない。
OCON-19627	次の条件が当てはまる場合に、Amazon EMR バージョン 5.2.0 を使用する Spark エンジンでマッピングが失敗することがある。 - マッピングに 1 つ以上の参照テーブルを読み取るトランスフォーメーションが含まれている。 - 参照テーブルのカラム名に大文字と小文字が混在している。
OCON-19518	次の条件が当てはまる場合に、MapR バージョン 6.1.0 を使用する Spark エンジンでマッピングが失敗することがある。 - マッピングに 1 つ以上の参照テーブルを読み取るトランスフォーメーションが含まれている。 - 参照テーブルのカラム名に大文字と小文字が混在している。
OCON-19467	【リソースの選択】ダイアログボックスから Hive テーブルを選択した場合、他のデータベースのテーブルも選択される。
OCON-19466	接続エクスプローラで【デフォルトのスキーマだけを表示する】オプションを使用して、デフォルトのスキーマを使用するテーブルを表示したり、デフォルト以外のスキーマからテーブルを追加したりすることができない。
BDM-29292	日時ポートと 10 進型ポートにデフォルト値が割り当てられている場合、Java トランスフォーメーションを含む Spark マッピングで不正確な結果が生成される。

バグ	説明
BDM-29206	Union トランスフォーメーションを含む Blaze マッピングが、不正確なパーティションカウントで失敗する。
BDM-29109	「core-site 構成と storageProfile に同じアカウントが含まれます」というエラーが表示されて、クラスタワークフローが失敗する。
BDM-29071	Blaze エンジン上で実行される動的マッピングでアップデートストラテジトランスフォーメーションを使用する際、マッピングで実行時に動的ターゲットのスキーマをリフレッシュすると、書き込みトランスフォーメーションでプライマリキーが保持されないため、マッピングが失敗する。
BDM-28578	Spark エンジンが SPN ユーザーと偽装ユーザーが異なるマッピングを実行すると、偽装ユーザーは SPN ユーザーがアクセスできない SPN ユーザーのディレクトリに一時ファイル用のディレクトリを作成する。ディレクトリの名前は、SPN ユーザーの名前である。
BDM-28559	グローバル述部最適化方式の初期化中に、マッピングの最適化がメモリ不足エラーで失敗する。
BDM-28503	Informatica ターゲットウィジェットとデータベースにある実際のテーブルとの間にカラム名の不一致がある場合、Hive ターゲットを使用したマッピングが検証エラーで失敗する。
BDM-28381	次の条件が当てはまる場合、Blaze エンジン上で実行されるマッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - マッピングにアップデートストラテジトランスフォーメーションが含まれている。 - データ統合サービスに対してオペレーティングシステムのプロファイルが有効になっている。 - データ統合サービスマシンの\$INFA_HOME/tomcat/bin ディレクトリで、空のファイルが作成されている。
BDM-28105	モデルリポジトリサービスからデータ統合サービスへの接続が失われたときに、このセッションに関連するログが WARN または ERROR 重要度レベルではなく FINE トレースレベルで表示される。
BDM-27847	ソーステーブルに無効なカラム名が含まれる場合、マッピングで予期しない結果が生成される。
BDM-27622	Blaze エンジン上でマッピングを実行する際、ステージングデータを Hive ターゲットに移動する間にマッピングが失敗することがある。
BDM-27280	10 進数を乗算する前に Spark エンジンが INSTR 関数を実行すると、次のエラーでマッピングの実行に失敗する。 org.apache.spark.sql.AnalysisException: No handler for UDF/UDAF/UDTF with Spark engine.
BDM-26982	マッピングが「ファイルが見つかりません」というエラーで失敗する。相対ディレクトリが FF-HDFS オブジェクトで構成されている場合、HDFS ディレクトリ読み取りで Spark エンジン上にデフォルトユーザーディレクトリが追加されない。
BDM-26961	Databricks Spark エンジンがルックアップトランスフォーメーションを含むマッピングを実行すると、タイプの不一致エラーでマッピングが断続的に失敗する。
BDM-26527	CyclicDependencyResolver において、マッピングが NullPointerException で断続的に失敗する。

バグ	説明
BDM-26248	カスタムクエリで圧縮コーデックを指定した場合、Hortonworks HDP 3.1 以外のすべての Hadoop ディストリビューションで、Blaze エンジンがこのコーデックを使用した HDFS ファイルの圧縮に失敗する。
BDM-26206	Spark エンジンを使用するフラットファイルソースおよびターゲットのマッピングを WANdisco 対応の Hortonworks HDP 2.6.5 クラスタで実行しようとする失敗する。
BDM-26095	<p>[実行設定] 設定で選択したデフォルトのデータ統合サービスを使用して Developer tool でプロファイルを実行すると、次のエラーが発生して、プロファイルは使用するマッピング構成の決定に失敗する。</p> <p>"[DS_10230] Cannot fetch the operating system profile [<profiling service name>] due to the following error: [[UM_10107] The operating system profile [<profiling service name>] does not exist in the domain."</p>
BDM-26006	FFTargetEscapeQuote フラグが設定されている場合、マッピングが失敗する。
BDM-26004	<p>バージョン 10.2.2 にアップグレードした後、アップグレード前に作成した動的マッピングで、Null 文字を含み、実行時にデータソースからオブジェクトカラムを取得するように構成された .dat ファイルから読み取ったデータをプレビューすると、次のエラーで失敗する。</p> <p>Failed to process mapping because of following reason [String index out of range].</p>
BDM-25117	<p>インテリジェント構造検出モデルから作成された複合ファイルリーダーオブジェクトでデータプレビューを実行すると、データプレビュージョブが次のエラーで失敗する。</p> <p>java.lang.ClassCastException: optional int64 generation_time is not a group.</p>
BDM-24789	Blaze エンジン上のマッピングで Hive テーブルを読み取り、データアクセス接続文字列とランタイムプロパティの両方でデータベース名を指定した場合、SQL オーバーライドがデータオブジェクトのデータベースではなく Hive 接続のデータベースを使用する。
BDM-24787	Spark 上のマッピングで Hive テーブルを読み取り、データオブジェクトでデータベース名を指定した場合、SQL オーバーライドがデータオブジェクトのデータベースではなく Hive 接続のデータベースを使用する。
BDM-24758	<p>バージョン 10.2.2 で、Blaze または Spark エンジン上で実行するように構成されたマッピングが失敗すると、マッピングは次に Hive エンジン上で実行を試みて、次のエラーで失敗する。</p> <p>SEVERE: [LDTM_5026] The Hive engine is not supported. Use the Blaze or Spark engine instead.</p>
BDM-24712	AWS クラウドプロビジョニング接続が、複数のセキュリティグループからの認証を受け入れない。
BDM-24580	Jep を使用せずに Python トランスフォーメーションを実行すると、データ統合サービスマシンにインストールされた Python バイナリが実行時に解決されない。
BDM-24450	Spark マッピングを同時に実行すると、データ統合サービスがメモリ不足エラーで失敗する。
BDM-24363	Developer tool がデータビューアから値をコピーできない。

バグ	説明
BDM-24212	Avro ファイルと AWS S3 バケットを使用した、バケット化された Hive テーブルを含むマッピングが、次のエラーで失敗する: org.apache.hadoop.hive.serde2.SerDeException: Encountered exception determining schema 問題を示す信号スキーマを返す: Null。
BDM-23575	Blaze エンジンと Spark エンジンで実行される、クラスタ内でラベル付けされたノードで実行されるマッピングのセッションログで、ノード数が誤って表示される。
BDM-22832	Spark エンジンが、SQL オーバーライドクエリを使用する、Hive ソースから読み取った、カスタムクエリをデータベースにプッシュするように構成されていないマッピングを実行すると、Spark 実行プランでステージングデータベースではなくソースデータベースにビューが作成される。
BDM-22481	同等の精度と位取りで設定されている 10 進型ポートで Spark エンジンがゼロの入力値を処理するときに、エンジンがその値をデータオーバーフローとして扱い、戻り値が NULL になる。 注: この制限は、Hortonworks HDP 3.1 クラスタに対して BDM-28598 を使用して追跡される。
BDM-22260	Google BigQuery、Google Cloud Storage、Google Cloud Spanner、または Google Analytics の接続を使用するマッピング実行の Spark 監視統計を取得できない。
BDM-21653	一部のマッピングで、Spark エンジンが不正確なタイムスタンプを付ける。
BDM-20962	動的マッピングで実行された暗黙的なデータ変換がマッピングログに表示されない。
BDM-18140	Spark エンジンで多数の参照テーブルを読み取るマッピングを実行すると、予想以上に時間がかかる場合がある。この問題は、マッピングに合計 140 個の参照テーブルを読み取るトランスフォーメーションが含まれている場合に発生します。
BDM-17953	クラスタが Kerberos でセキュリティ保護されている場合に、Spark エンジンでマッピングを実行すると、認証エラーが発生する。
BDM-17174	メモリ使用量が最大コンテナサイズに達すると、YARN がコンテナを終了する。 次の条件に当てはまる場合、OOP コンテナマネージャのメモリ使用量は最大コンテナサイズに達します。 - 同時ジョブの実行には 2 日以上かかります。 - Blaze エンジンがアイドル状態タイムアウト制限または日没時間に達していません。
BDM-2549	定数の引数を持つ関数を呼び出す場合、出力で SYSTIMESTAMP 関数を使用する式トランスフォーメーションを含むマッピングを実行すると、SYSTIMESTAMP は処理したすべての行に対して同じ値を返す。

Data Engineering Streaming で解消された制限事項と実装された拡張要求 (10.4.0)

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
IIS-3531	構成された期間にデータがストリーミングされていない場合、時間に基づくファイルのロールオーバーを構成すると、データ統合サービスは新しいファイルにロールオーバーしない。
IIS-3242	次の JMS メッセージヘッダーフィールドに割り当てられている値が、JMS サーバーで管理されていないために JMS ソースおよびターゲットで無視される。 <ul style="list-style-type: none">- JMSMessageID- JMSRedelivered- JMSTimestamp
IIS-2573	動的マッピングを実行するときに、ウィンドウトランスフォーメーションからアグリゲータトランスフォーメーションにウィンドウポートを接続すると、マッピングの検証が失敗する。

以下の表に実装された拡張要求を示します。

バグ	説明
IIS-3897	Spark エンジンログに、誤った形式の警告メッセージのフィールド名が数多く含まれる。
IIS-2027	[チェックポイントディレクトリ] ランタイムプロパティが Developer tool 上のユーザーインタフェースに移動する。

Enterprise Data Catalog で解消された制限事項（10.4.0）

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
OCON-19561	文字データに UTF-8 エンコーディングを使用していないフラットファイルに対して検出を実行すると、プロファイリングが失敗し、例外が表示される。
LDM-7630	カタログで JSON ファイルの値の頻度の結果を表示できない。
LDM-7571	PowerCenter と Greenplum のマッピングの場合に、[リネージュと影響] ビューが壊れる。この問題は、parameters.prm ファイルでマッピングの PostgreSQL データベース接続タイプを指定しない場合に発生する。
LDM-7526	リソース名と区切りファイル名が同じである場合、カスタムリソースが次のエラーで失敗する: java.lang.StackOverflowError
LDM-7512	すべての Apache HBase ポートに対して HTTP TRACE が無効化されていない場合、セキュリティの脆弱性が発生する可能性がある。
LDM-7493	Enterprise Data Catalog で類似性の検出スキャナに関連するリソースのリストをフィルタ処理および指定できない。
EIC-7603	SSL が有効になっている埋め込みクラスタに Enterprise Data Catalog をデプロイする際に、カスタム SSL 証明書の構成をサポート。

バグ	説明
EIC-23769	メタデータをカタログに取り込む際に、OBIEE リソースが失敗する。
EIC-23210	テーブルを使用するマッピングに接続されていないルックアップトランスフォーメーションが含まれる場合、 【リネージュ】 、 【影響】 、 【管理】 サマリにテーブルアセットがリストされない。
EIC-23081	JVM パラメータで XMI ファイルオプションを使用するリソースのロードが失敗する。
EIC-22969	Catalog Administrator からカスタム属性を削除した後、検索結果ページに検索結果が表示されず、Enterprise Data Catalog で検索を実行できない。
EIC-22844	Enterprise Data Catalog の 【概要】 タブで、ソースの説明の値として、Oracle リレーショナルテーブルの関連するソースの説明の値ではなく、「null」が表示される。
EIC-22335	Erwin リソースを作成して実行した後、Enterprise Data Catalog にユーザー定義のプロパティアセットタイプが表示されない。
EIC-22205	PowerExchange を使用して作成された DB2zOS リソースにおいて、データソースで削除されたオブジェクトがカタログで更新されない。
EIC-22106	データドメインにルールを割り当てて、データドメインを保存すると、エラーが表示される。
EIC-22093	JDBC リソースが外部テーブルを持つ Athena データソースのスキャンに失敗する。
EIC-22063	Amazon EMR 5.14 で Hive リソースのプロファイリングの実行をサポート。
EIC-21897	Enterprise Data Catalog で、PowerCenter トランスフォーメーションロジックの 【リネージュと影響】 タブに、日本語文字が文字化けして表示される。
EIC-21727	リソースの 【メタデータのロード設定】 タブで 【ソースメタデータフィルタ】 パラメータに 【すべて】 オプションを選択した後にリソースをスキャンすると、シノニムによって参照される外部テーブルに関するメタデータがカタログに不正確に表示される。
EIC-21456	Apache Atlas リソースのメタデータスキャンが無制限に実行される。
EIC-21453	Enterprise Data Catalog にログオンした後、ブラウザの新しいタブでアセットまたはリソースを開くと、新しいタブに禁止されている要求エラーが表示される。新しいタブを閉じると、既存のタブにタイムアウトステータスが表示され、ユーザーはログアウトされる。
EIC-21290	ビジネス用語タイプのカスタム属性を編集すると、Enterprise Data Catalog は前に割り当てられたビジネス用語の値を削除する。
EIC-21236	Blaze エンジン上でプロファイルを実行すると、Hive テーブルのプロファイル実行が失敗する。
EIC-21197	Catalog Administrator で関連するリソースへの読み取りおよび書き込み権限がない場合、 【リレーションシップ】 タブでリソースのリレーションシップ図が予期せずにハングする。
EIC-21175	Catalog Administrator でカスタム属性を削除した後でも、 【フィルタ基準】 セクションにカスタム属性フィルタオプションが表示される。
EIC-20579	【最初の N 行】 オプションを選択した場合でも、Amazon Redshift リソースのすべての行でプロファイルが実行される。

バグ	説明
EIC-20418	メタデータに改行文字（\n）が含まれる場合、NullPointerException エラーでリソースが失敗する。
EIC-20416	多数のファイルを含むリソースを実行すると、[監視] タブが反応しなくなる。この問題が発生するのは、リソースに複数の例外が発生する可能性があり、Catalog Administrator が例外のリストを取り込むのに 15 分以上かかるためである。
EIC-20373	ジョブが 1 回だけ実行されるようにスケジュールされているにもかかわらず、データドメイン伝搬ジョブが継続的に実行される。
EIC-20080	Enterprise Data Catalog をアップグレードし、新しいオブジェクトタイプを既存のカスタム属性に追加した後、アップグレードの前に存在していたオブジェクトタイプがカスタム属性で保持されない。
EIC-19952	CSV ファイルを使用してカタログにデータを取り込むと、悪意のあるコードを介してセキュリティの脆弱性が発生する可能性がある。この脆弱性を防ぐ必要がある。
EIC-19769	Enterprise Data Catalog がリネージュと影響図をレンダリングするのに、通常よりも時間がかかる。
EIC-19588	Enterprise Data Catalog がテーブルアセットの 【カラム】 タブにすべてのカラムを表示しない。この問題は、Snowflake リソースから抽出されたテーブルアセットメタデータで発生する。
EIC-19465	データロードクエリが SQL クエリの AFTERSQL セクションにある場合、IBM Datastage リソースはリネージュ情報を抽出しない。
EIC-19423	次の条件が当てはまる場合に、検索タブにすべてのデフォルトフィルタと 【フィルタ】 パネルの組み合わせフィルタが誤って表示される。 1. 認定評価とリソースタイプ、認定評価とアセットタイプなど、フィルタの組み合わせを使用して検索タブを作成し、保存した。 2. ホームページに移動した。 3. ランダムアセットを検索し、検索結果ページが表示されている。 4. 【新規検索】 タブをクリックした。
EIC-19385	【フィルタリングを許可】 オプションを使用してフィルタが適用されているカスタム属性を削除すると、検索結果にそのカスタム属性が誤って表示される。
EIC-19353	Amazon S3 リソースのスキャンが、503: Service Unavailable エラーで失敗する。
EIC-19183	Enterprise Data Catalog の 【検索結果】 ページに、間違ったアセット名候補が信頼性の低い一致として表示されることがある。
EIC-19027	【新規検索】 タブページの 【最終更新日】 フィルタセクションで 【カスタム】 オプションを使用して検索タブを作成すると、エラーが表示される。
EIC-18992	以前に実行していたリソースに対して EBF-13039 を適用し、バージョン 10.2.2 HotFix 1 にアップグレードすると、アップグレード後は同じリソースの実行が失敗する。
EIC-18965	バージョン 10.2.2 ServicePack 1 でデータドメインをインポートすると、infacmd.sh tools importobjects が バージョンの不一致で失敗しました というエラーが表示される。
EIC-18935	マルチノードの埋め込みクラスタのノードを削除すると、クラスタが起動に失敗し、クラスタサービスが何もログメッセージを表示しない。

バグ	説明
EIC-18895	カタログの Microsoft SQL Server リソースについて、DATETIME2 データ型を持つカラムの結果が表示されない。
EIC-18846	ファイルシステムリソースが Timestamp データ型を持つ Parquet ファイルのスキャンに失敗する。
EIC-18733	プロキシ構成のせいで、Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) リソースが失敗する。
EIC-18670	バージョン 10.2.2 ServicePack 1 インストーラに Microsoft Azure Blob ストレージバイナリが含まれていない。
EIC-18554	カタログのアセットを検索すると、正しくない評価結果が表示されることがある。
EIC-17826	Informatica クラスタサービスが Kerberos および SSL 認証を使用している場合、10 時間後にサービスが応答を停止し、「Error 401 認証が必要です」エラーが表示される。
EIC-17699	次の条件に当てはまる場合、リソース結果がカタログに表示されない。 1. リソースを作成し、 【メタデータのロード設定】 > 【スキーマ】 フィールドで 【すべて】 オプションを選択している。 2. リソースを実行している。 3. プロファイリングウェアハウスリソースを実行している。
EIC-17308	リソース構成でカスタム JVM オプションが使用されている場合、オフラインリソースが Java 仮想マシンの起動に失敗する。
EIC-17026	PowerCenter リポジトリページが Microsoft Windows 簡体字中国語の場合、PowerCenter リソースのスキャンが失敗する。
EIC-16481	【類似性プロファイルを実行する】 オプションを選択してリソースを実行すると、リソースの実行が完了するのに数日かかる。
EIC-16209	カスタムリソースに含まれていたファイルがカタログバックアップに含まれていないため、カタログのバックアップおよびリストア後にカスタムリソースが失敗する。
EIC-16202	Enterprise Data Catalog が 【検索結果】 ページのランク付け順序に従ってカスタム属性をリストしないことがある。
EIC-15873	Data Engineering マッピングに戻りポートのないルックアップトランスフォーメーションが含まれる場合、Informatica Platform リソースが NULL ポインタ例外で失敗する。
EIC-15696	infacmd collectAppLogs コマンドが collectAppLogs] failed with error [Java heap space]エラーメッセージで失敗する。
EIC-15682	読み取り専用ロールを持つユーザーは、Cloudera クラスタ上で Enterprise Data Catalog をデプロイできない。
EIC-14826	リソースに 【サブディレクトリを含める】 オプションを選択すると、カラムプロファイリングが次のエラーで失敗する: SEVERE: [APPSDK_Msg_1762] 例外が発生して初期化に失敗しました: 操作 CHECKACCESS が HTTP404 で失敗しました: FileNotFoundException

バグ	説明
EIC-14797	管理者以外のユーザーは Azure Microsoft SQL Server リソースの値の頻度を表示できない。
EIC-12046	次のエラーでカタログサービスを起動できない: ERROR [CSStartup:ConnectionHandler@162] - 指定されたクラスター URL [/api/v8/clusters/ cluster/parcels/]に接続できません。クラスターの URL に有効な資格情報を指定したことを 確認してください。クラスター上の WANdisco Fusion 検証が WANdisco Fusion に対して有 効化されていないことが、この問題の原因である。

Enterprise Data Preparation で解消された制限事項と実装された拡張要求 (10.4.0)

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
IDL-15080	300 を超える Enterprise Data Catalog リソースを含むデータレイクにデータをパブリッシュしようとする、パブリケーションウィンドウにエラーが表示されて開くことができない。
IDL-15025	検索結果でリソースを選択してから、リソースオプションでアセットを選択した場合、アセットタイプに基づいてアセットをフィルタ処理できない。
IDL-14596	Enterprise Data Preparation が 300 を超える Enterprise Data Catalog リソースを含むデータレイクを使用する場合、アプリケーションのホームページをロードするのに 25 秒以上かかる。
IDL-14499	データ準備中にルールを選択すると、アプリケーションで重複するルールが表示される。
IDL-12755	ブラウザのロケールを日本語に変更すると、アプリケーションで意味的に間違ったエラーメッセージが表示される。
IDL-12669	Informatica Administrator から Enterprise Data Preparation サービスを無効にできない。
IDL-12062	データレイクからカンマ区切り値ファイルをダウンロードすると、Enterprise Data Preparation は 24 時間形式を使用するカラム値を 12 時間形式に変換する。
IDL-11785	データを準備する際、次のエラーが発生する。 次のエラーで失敗する: [[Preparation_0004] データ準備サービスからレシピを取得できませんでした。

以下の表に実装された拡張要求を示します。

バグ	説明
IDL-15043	監査イベントログに、各イベントのプロジェクト名属性およびワークシート名属性が含まれる。

Informatica コネクタツールキットの解消された制限事項（10.4.0）

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
OCON-19385	Informatica コネクタツールキットを使用して PowerCenter のアダプタをビルドして plugin.xml ファイルを生成すると、plugin.xml ファイルに重複する不完全なエントリが含まれる。

マッピングおよびワークフローの解消された制限事項（10.4.0）

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
OCON-18489	LTRIM および RTRIM 関数を SAP HANA ソースにプッシュダウンできない。
IDQ-8465	マッピングで最適化を有効にして、ID 照合分析を実行するマッピングを実行する場合、一致する行ペアが間違った位置に入られて出力データが返される可能性がある。
IDQ-7269	ヒューマンタスクを含むワークフローにおいて、Analyst ツールでデータがまったく表示されない例外テーブルが生成されることがある。
BDM-28524	最後のポートが string データ型であるが、ポートの精度と一致する十分なデータが最後のポートにない場合、マッピングで、ファイル名カラムポートを含む固定幅フラットファイルソースからデータを読み取ることができない。
BDM-26385	書き込みトランスフォーメーションでシステムパラメータ sys:MappingName を拒否ファイル名として構成した場合、マッピングで拒否ファイルを生成できない。
BDM-23876	クラスタユーザー管理サービスとの接続がタイムアウトした場合、次のようなエラーでワークフローを起動できない。 [[JSF_0082] The services framework cannot process the request because the connection: <connection name> was not restored during the reconnection timeout period.

Metadata Manager の解消された制限事項と実装された拡張（10.4.0）

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
MM-5025	リソースに NULL という名前のカラムがある場合、Teradata リソースのリネージュがカラムレベルで表示されない。
MM-4943	リソースを編集する際、[リンク作成ルール] タブでアップロードする複数のルールセットを選択できない。

バグ	説明
MM-4937	列挙されたリンクファイルを使用してアセットをリンクする場合、Analyst ツールでファイル内の各リンクの通知が表示される。
MM-4687	バージョン 10.1 からバージョン 10.2 HotFix 1 にアップグレードした後、mmRepoCmd backupRepository コマンドを実行すると、Metadata Manager のバックアップが失敗する。
MM-4679	Analyst ツールでカスタム属性の説明を変更してから、Metadata Manager でページをリフレッシュした場合に、Metadata Manager でビジネス用語のカスタム属性の説明が更新されない。
MM-3752	リンク条件に UDP 属性が含まれる場合、Erwin リソースと Business Glossary リソース間のルールベースのリンクが失敗する。
MM-3738	[カタログ] タブのツリービューでリソースの子オブジェクトを選択する際、リソース名を右クリックすると、[リネージュを実行] および [リネージュをエクスポート] オプションが表示される。
MM-3733	mmcmd.sh importLinkRuleSets コマンドを実行すると、ディレクトリにリンクルールセットファイルが含まれない場合でも、次のメッセージが表示される: 操作 importLinkRuleSets が正常に完了しました
MM-3139	ソース修飾子に UNION 文を使用する SQL オーバーライドが含まれ、カラムが ALIAS として含まれる場合、Oracle リソースと PowerCenter リソース間のリネージュが表示されない。

以下の表に実装された拡張要求を示します。

バグ	説明
MM-4934	ビューに 2 つのレベルの select 文が含まれる場合、Teradata リソースのビュー間のリネージュが表示される。
MM-4735	Oracle シノニムと Oracle ビュー間のリネージュが属性レベルで表示される。
MM-2044	リソースを編集して、[パラメータ] タブで言及したフォルダの接続詳細を変更すると、[OK] をクリックするか別のタブを選択したときに、[パラメータ] タブにリダイレクトされる。
MM-1364	Metadata Manager で、Teradata カラムのデータ型と chartype を表示できる。chartype は、カラムのコードページを示す。

PowerCenter の解消された制限事項 (10.4.0)

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
OCN-20450	使用されている Oracle クライアントが 12CR1 または 12CR2 で、Oracle テーブルが 4294967295 行を超える場合、PowerCenter 統合サービスは 4294967295 行を超える読み取りを停止する。
IDQ-8418	次の状況で、マッピングが失敗する。 1. アドレスバリデータトランスフォーメーションを読み取るマップレットを、Informatica Developer の別のマップレットに追加した場合。 2. 親マップレットを PowerCenter にエクスポートし、実行するマッピングにそのマップレットを含めた場合。

プロファイルおよびスコアカードの解消された制限事項（10.4.0）

以下の表に既知の制限事項を示します。

バグ	説明
OCN-9050	次の条件に該当する場合、Analyst ツールにエラーが表示される。 1. Hive ソースにプロファイルまたはスコアカードを作成する。 2. ネイティブランタイム環境で、プロファイルまたはスコアカードを実行する。 3. プロファイル結果またはスコアカード結果をドリルダウンする。
IDE-4298	カラムプロファイルとオペレーティングシステムプロファイルを実行すると、オペレーティングシステムプロファイルに構成されたディレクトリではなく、ドメインの disTemp ディレクトリにファイル nsort.xxxxxx が生成される。
IDE-4137	データオブジェクトのカラムの精度が 256 を超える場合、Snowflake データオブジェクトのプロファイルの実行およびデータプレビューが失敗する。
IDE-4053	いずれかのルールに入力が含まれない場合、複数のルールを持つプロファイルまたはスコアカードを実行すると、Null ポインタ例外が表示される
IDE-4047	論理データオブジェクトのプロファイル結果をドリルダウンすると、ステージングされたデータのドリルダウン結果が間違って表示される。
IDE-4026	ユーザーに必要な権限や許可が割り当てられている場合でも、管理者以外のユーザーはカラム結果を参照テーブルに追加できない。
IDE-3996	ソース接続のホスト名に角カッコが含まれる場合、カラムプロファイルの実行が失敗する。
IDE-3969	25 億以上の行を含む Hive テーブルでカラムプロファイルを実行すると、ログファイルにエラーが表示される。
IDE-3701	Analyst ツールで、プロファイルの【スコアカードに追加】オプションをクリックすると、例外が表示される。
IDE-3686	プロファイリングウェアハウス消去操作中に、データ統合サービスログに消去ジョブが起動したか、一時停止しているか、または完了したかが表示されない。

バグ	説明
IDE-3660	次の条件に該当する場合、Analyst ツールでカラムプロファイルのドリルダウンが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - Salesforce および Oracle データオブジェクトを使用し、フィルタ、ジョイナ、アグリゲータ、または式トランスフォーメーションを選択して論理データオブジェクトを作成する場合。 - 論理データオブジェクトに対してカラムプロファイルを作成する場合。 - プロファイルを実行し、プロファイル結果に対してドリルダウンを実行する場合。
IDE-3566	次の条件に該当する場合、Analyst ツールにおいて、編集したルールを除くすべてのルールについて、ルールの説明が非表示になる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. プロファイルに、各ルールに説明がある複数の式ルールを割り当てる。 2. プロファイルを実行する。 3. プロファイルを編集してから、ルールの説明を変更する。 4. プロファイルを保存して実行する。 5. プロファイルを編集し、ルールの説明を表示する。
IDE-3474	ソースのカラム名が 250 文字を超える場合、データソースのプロファイル実行が失敗する。
IDE-3357	バージョン 10.1.1 HotFix 1 にアップグレードした後、カラムプロファイルとデータドメイン検出が次のエラーで失敗する: java.lang.RuntimeException: [informatica][DB2 JDBC Driver][DB2]文字データ、右切り捨てが行われました。
IDE-2300	Developer tool で、カスタマイズされたデータオブジェクトを選択して保存し、マッピング仕様を実行すると、HTTP 500 エラーが表示される。

ルール仕様の解消された制限事項（10.4.0）

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
IDQ-7904	ルールセット名がルール仕様に対応するマップレットの出力の名前と同じである場合、ルール仕様は検証に失敗します。
IDQ-7898	ルール仕様を別のルール仕様のアクションに追加すると、Analyst ツールの応答時間が低下する可能性があります。

セキュリティの解消された制限事項（10.4.0）

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
PLAT-24579	<p>アプリケーションサービスが実行されているノードのホスト名がパブリックサフィックスのないネットワークドメイン名に属する場合、次の Web アプリケーションに対して Security Assertion Markup Language (SAML) 認証が機能しない。</p> <ul style="list-style-type: none">- Informatica Administrator- Informatica Analyst- Enterprise Data Catalog- 監視 <p>次に、パブリックサフィックスのあるドメイン名に属するホスト名の例を示す。 <host name>.example.com</p> <p>次に、パブリックサフィックスのないドメイン名に属するホスト名の例を示す。 <host name>.example.local</p>
PLAT-23345	<p>Kerberos レalm間認証を使用するように構成されたドメインで Informatica Administrator にログインすると、ログインページに次のメッセージが表示される。 ログイン情報が無効です。</p>

サードパーティ製品で解消された制限事項（10.4.0）

以前の解消された問題に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

バグ	説明
OCON-18449	<p>SQL Server ストアドプロシージャに対して読み取りまたは書き込みを行うように PowerCenter セッションを構成した場合、ストアドプロシージャでエラーが発生すると、出力がランダムな順序で表示される。</p>
BDM-9585	<p>Hive ビューにアクセスするよう SQL オーバーライドを構成している場合、Spark エンジンでマッピングが失敗する。 Apache Spark チケットの参照番号: SPARK-21154</p>
BDM-25924	<p>次の条件が当てはまる場合に、Hortonworks HDP 3.1 クラスタで実行されるマッピングが失敗することがある。</p> <ul style="list-style-type: none">- マッピングが LLAP が有効化されたカスタムデータオブジェクトから読み取る。- マッピングが Blaze エンジンで実行されている。 <p>次のようなエラーが表示される場合があります。</p> <p>"Data partitioning is not supported for the mapping due to [Index: 0, Size: 0]</p> <p>エラーの詳細については、データ統合サービスのログを参照してください。 Cloudera チケットの参照番号: 00228458</p>
BDM-25475	<p>クラスタステージングディレクトリ内のイレージャーコーディング（EC）用のコンテンツを削除してマッピングを実行すると、自動インストーラのコピーが Raw EC 用の XOR コーデックの作成に失敗する場合があります、そのときにマッピングが失敗する可能性があります。</p>

バグ	説明
BDM-25135	<p>エンタープライズセキュリティパッケージを使用した Azure HDInsight クラスタで、Active Directory ユーザーを使用してクラスタ設定を作成すると、クラスタ設定の作成が次のエラーで失敗する。</p> <p>[ICMD_10033] Command [createConfiguration] failed with error [[CLUSTERCONF_10009] Create failed for the cluster configuration [testcco] while fetching the configuration from the cluster because of the following error: [Failed to create the cluster configuration due to invalid credentials. Verify cluster information such as host name, port number, user ID, and password.].].</p> <p>Microsoft チケットの参照番号: 119042624000873</p>
BDM-20346	<p>Spark エンジンが、Hortonworks HDP 3.1 クラスタで CSV タイプの組み込みの Hive SerDe の実行に失敗する。</p> <p>Hortonworks HDP チケットの参照番号: 00220586</p>
BDM-17470	<p>Azure HDInsight 環境において、更新ストラテジトランスフォーメーションで Hive 結合を有効にするか、ベクトル化したクエリを実行できるように Hive を有効にすると、特定のカラムにデータを挿入できない。</p> <p>Apache Hive チケットの参照番号: HIVE-14076</p>

10.4.0 の既知の制限事項

このセクションでは、10.4.0 で見つかった既知の制限事項を示します。

Data Engineering Integration の既知の制限事項（10.4.0）

以下の表に 10.4.0 で見つかった既知の制限事項を示します。

バグ	説明
OCON-23234	-infra-incremental-key パラメータの増分キー値が小文字の場合、増分データ抽出用に構成された Sqoop マッピングが失敗する。
CM-8210	インテリジェント構造検出で、ORC 入力の Union データ型が処理されない。Union データを含むサンプル ORC ファイルに基づいてファイルを作成しようとすると、次のエラーでモデルの作成に失敗する: 「モデルを作成できませんでした。別のサンプルファイルを選択してください。」
BDM-30018	Spark エンジン上で HDP 3.1 または Dataproc 1.4 に構成されたマッピングで Hive テーブルを読み取り、データアクセス接続文字列とランタイムプロパティの両方でデータベース名を指定した場合、SQL オーバーライドがデータオブジェクトのデータベースではなく Hive 接続で指定されたデータベースを使用する。
BDM-30014	<p>ファイルパスを Databricks のクラスタの作成タスクの詳細プロパティ（クラスタタグ、Spark 設定、または環境変数）の値として指定すると、次のエラーでクラスタの作成タスクが失敗する。</p> <p>java.lang.RuntimeException: Failed to create Databricks Cluster with name [<name>] due to invalid character at [<position>] in [<file location>].</p>

バグ	説明
BDM-30008	ターゲットスキーマストラテジ FAIL - Fail mapping if target schema is different を選択して、ターゲット Hive テーブルを切り捨てたが、マッピングフローからのターゲットスキーマはターゲットテーブルのスキーマと同じである場合、Spark エンジンでターゲットテーブルを切り捨てるかわりに、データをターゲットに追加する。
BDM-29520	Spark エンジンでデータプレビュージョブを取り消すと、予期しない動作が発生する。
BDM-29441	Blaze LLAP を使用して実行するように構成されたマッピングが、「テーブルが見つかりません」というエラーで失敗する。 回避策: Blaze エンジンの詳細プロパティで、Hadoop 接続に次のプロパティを設定します: hive.hiveserver2.jdbc.url=<database schema>
BDM-29258	Data Engineering リカバリ用にデータ統合サービスを有効にすると、データ統合サービスログは Administrator ツールで表示される DataEngineeringRecovery データ統合サービスオプションではなく BigDataJobRecovery データ統合サービスオプションを指す。
BDM-29037	Developer tool でのフラットファイルデータソース用の SQL データサービスの作成が、NULL ポインタ例外で断続的に失敗する。
BDM-28956	ウィンドウ化のためにプレビューポイントとして構成された式トランスフォーメーションでデータをプレビューすると、ジョブが失敗することがある。
BDM-28953	JSON キーまたは XML タグに 128 文字超が含まれる場合、マッピングが失敗する。 回避策: 128 文字以下の JSON キーまたは XML タグを使用してください。
BDM-28937	マッピングに対して Data Engineering リカバリを有効にしても、データ統合サービスで、マッピング出力を持つ Spark エンジンで実行するように構成されたマッピングがリカバリされない。
BDM-28882	アプリケーションがクラスタに送信された後にデータ統合サービスが停止した場合、Data Engineering リカバリを有効にしたときに、Administrator ツールの「モニタ」ビューにリカバリされたジョブのサマリ統計が表示されない。
BDM-28867	データ統合サービスノードとクラスタノードが異なるタイムゾーンにある場合、階層データのプレビュー時に、Developer tool の「データビューア」ビューに間違った日時が表示される。「データビューア」ビューでは、プレビューしているデータソースまたはトランスフォーメーションによって生成された値ではなく、クラスタのタイムゾーンに基づいて日時が表示される。
BDM-28537	JSON キーまたは XML タグに期間または他の特殊文字が含まれる場合、複合関数 PARSE_JSON および PARSE_XML のミッドストリーム解析でデータを解析できない。 回避策: JSON キーまたは XML タグで特殊文字を削除します。
BDM-28514	Developer tool が PARSE_JSON および PARSE_XML 複合関数の 3 つ以上の引数を受け入れる。 回避策: PARSE_JSON および PARSE_XML 複合関数では、2 つの引数を使用してください。

バグ	説明
BDM-28405	<p>異なるアグリゲータトランスフォーメーションを含む 2 つのマッピングを比較すると、比較レポートに cacheDir 値がオブジェクトとして表示される。</p> <pre> { "property" : "Mapping.transformations.AggregatorTx[Aggregator]<'Aggregator'>.cacheDir\$ [PredefinedParameter]<'TempDir'>", "sourceValue" : " object exists ", "sinkValue" : " object doesn't exist " }, { "property" : "Mapping.transformations.AggregatorTx[Aggregator]<'Aggregator'>.cacheDir\$ [PredefinedParameter]<'CacheDir'>", "sourceValue" : " object doesn't exist ", "sinkValue" : " object exists " } </pre>
BDM-27924	<p>クエリで where、name、project、folder などの予約キーワードを値として割り当てると、infacmd dis queryDesignTimeObjects および queryRunTimeObjects コマンドが失敗する。 回避策: クエリで予約キーワードを割り当てないでください。</p>
BDM-27438	<p>Blaze エンジン上で HDP 3.1 に構成されたマッピングで外部 ORC ターゲットに書き込むと、マッピングによりデータが一時 Parquet テーブルにステージングされ、HS2 を使用してターゲットに書き込まれるが、ステージングテーブルの追加によってパフォーマンスが低下することがある。</p>
BDM-27234	<p>Developer tool が、マッピングでは使用できない特殊文字を含む複合データ型定義名を受け入れる。名前に特殊文字を含む式を検証すると、解析エラーが発生する。 回避策: 複合データ型定義名に特殊文字を使用しないでください。</p>
BDM-27224	<p>次の状況では、タグの説明を更新できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - infacmd dis タグまたは REST API PUT /core/v1/objects/tag/{tag} を使用して新しいタグを作成する際に、同じタグ名を持つタグがすでに存在する場合。 - infacmd dis replaceAllTag または REST API POST /core/v1/objects/tag/{tag} を使用してすべてのタグを置き換える場合。
B2BT-899	<p>ミッドストリームでインテリジェント構造モデルが使用されている場合、インテリジェント構造検出で入力各配列の最初の配列要素のみが渡される。他のすべての配列要素は破棄される。</p> <p>例えば、「Companies」ルート要素に複数の「Company」要素を持つ配列が含まれる場合、インテリジェント構造検出で最初の「Company」要素のみが渡される。</p>
B2BT-889	<p>特殊文字を持つカラム名を含む複合ファイルデータオブジェクトでデータプレビューを実行すると、データ統合サービスは Spark エンジンに要求を渡すことができない。</p>

Data Engineering Streaming の既知の制限事項 (10.4.0)

以下の表に 10.4.0 で見つかった既知の制限事項を示します。

バグ	説明
IIS-4020	Spark エンジンが Amazon S3 ターゲットファイルに書き込むときに、Amazon EMR バージョン 5.26 でクリーンアップが失敗する。
IIS-4016	Spark エンジンが Amazon S3 ターゲットファイルに書き込むときに、Cloudera CDH バージョン 6.2 および 6.3 でファイルのロールオーバープロセスが次のエラーで失敗する。 <code>java.lang.NoClassDefFoundError: org/apache/hadoop/tools/DistCp</code> 回避策: Administrator ツールでディストリビューションバージョンを 5.15 に設定します。

ドメインの既知の制限事項 (10.4.0)

以下の表に 10.4.0 で見つかった既知の制限事項を示します。

バグ	説明
PLAT-25059	Microsoft SQL Server を Always On 可用性グループとともに使用するマルチノード環境で、データベースが別のノードにフェイルオーバーされると、ドメインの起動に失敗する。

Enterprise Data Catalog の既知の制限事項 (10.4.0)

以下の表に 10.4.0 で見つかった既知の制限事項を示します。

バグ	説明
LDM-7676	EnableReferenceResource プロパティが True に設定されている場合、次のリソースに対するスタンドアロンスキマユーティリティを使用するメタデータ抽出が失敗する。 <ul style="list-style-type: none">- PowerCenter- Informatica Platform- Informatica Cloud サービス- Apache Atlas- SQL Server Integration Services- Cloudera Navigator- Tableau
EIC-25043	次の条件に該当する場合、プロファイルの実行と一意のキー推測の実行を同時に行うことはできない。 <ol style="list-style-type: none">1. プロファイルの実行に Blaze エンジンまたは Spark エンジンを選択している場合。2. 一意のキー推測の実行に「ネイティブ」オプションを選択している場合。
EIC-24860	シングルサインオンおよびログアウトに PingFederate を使用可能なユーザーとして Enterprise Data Catalog アプリケーションにログインした後、再度ログインしようとしたときに、ログイン資格情報を求められる。
EIC-24763	カスタム属性を作成して「新しいカスタム属性」ダイアログボックスから「オブジェクトタイプの階層表示」オプションを選択すると、Internet Explorer が応答を停止する。

バグ	説明
EIC-24744	次の条件に該当する場合、Catalog Administrator が応答できなくなることがある。 1. ソースデータオブジェクトでカラムの類似性を推測するためにプロファイルを実行する場合。 2. プロファイルの実行を取り消そうとする場合。
EIC-24714	データベーススクリプトリソースがスタンドアロンスキャナユーティリティを使用してメタデータを抽出するのに、20 時間以上かかる。
EIC-24709	Catalog Administrator から Informatica Intelligent Cloud Services 組織を削除した後も、データプロビジョニングタスクの作成に使用する 【データプロビジョニング】 タブが表示される。
EIC-24685	Enterprise Data Catalog において、カスタマイズ属性とビジネス用語で参照リソースをエンリッチ化できないことがある。
EIC-24672	元と宛先に繰り返しアセットがある場合、コンパクトビューに不正確なアセット数が表示される。
EIC-24662	Enterprise Data Catalog で、構造化および非構造化ファイルを含む推測されたデータドメインをデータドメインアセットビューからキュレートできない。
EIC-24655	Informatica クラスタサービスに構成されている Hadoop ゲートウェイホスト名の長さが 64 文字を超える場合、次のエラーでカタログサービスの起動に失敗する: INFO security.CertificateManager - 140182417078160:error:0D07A097:asn1 encoding routines:ASN1_mbstring_ncopy:string too long:a_mbstr.c:158:maxsize=64. 回避策: この問題が発生するのは、セキュリティ証明書を生成するツールが 64 文字を超える共通名を処理できないためです。証明書で長い名前の Subject Alternative Name を構成するか、共通名を短くして、問題を解決できます。
EIC-24644	【複合データドメイン】 検索フィルタが 【フィルタ基準】 パネルに表示されない。この問題は、複合データドメイン検出およびプロファイリングを有効にしてリソースを構成した後でも発生する。
EIC-24628	Enterprise Data Catalog をバージョン 10.2.2 HF1 から 10.4.0 にアップグレードする際、Hive リソースの 【メタデータのロード設定】 タブの 【次の設定で実行】 プロパティが空である。
EIC-24622	コンパクトビューで異なるリソースのアセットが繰り返された場合、ビューに元または宛先の一部のリンクが表示されない。
EIC-24591	Informatica Enterprise Data Catalog をバージョン 10.4.0 にアップグレードした後、 【アプリケーション設定】 ページを開くのに通常よりも時間がかかる。
EIC-24585	20 時間経っても、Cloudera Navigator リソースの再スキャンステータスが 【完了】 にならない。
EIC-24571	読み取りおよび書き込み権限がないユーザーがコンパクトビューでリネージュおよび影響の情報を表示した場合、コンパクトビューに間違ったアセット数が表示される。
EIC-24531	Informatica Administrator を使用してカタログサービスを停止した後も、スキャナが引き続きアクティブ状態である。 回避策: 必要な YARN アプリケーションを停止します。
EIC-24516	【アプリケーション設定】 ページにカスタム属性を追加した後、Enterprise Data Catalog が Catalog Administrator 内の文字列タイプのカスタム属性のプロパティ値を保持しない。

バグ	説明
EIC-24515	ソースデータベースオブジェクトでプロファイルとデータドメイン検出を実行した後、Enterprise Data Catalog でカラム名の UTF-8 文字に「?」と表示される。
EIC-24505	Oracle Business Intelligence バージョン 12C のリソースを作成する際に、 【接続プロパティ】 セクションに OBIEE12C バージョンが表示されない。 回避策: 【自動検出】 オプションを選択して、OBIEE 12C バージョンを使用します。
EIC-24503	Enterprise Data Catalog がビューからの内部リンクを表示せず、Erwin リソースの条件オブジェクトを抽出する。
EIC-24383	リソースをバージョン 10.4.0 にアップグレードした後、Enterprise Data Catalog がリソース構成を検証しない。
EIC-24290	NULL ポインタ例外により、IBM Datastage リソースのスキャンが次のエラーで失敗する: java.lang.StackOverflowError 回避策: リソースの構成時に、 【JVM オプション】 プロパティ値を-Xss10m に設定します。
EIC-24242	テーブルまたはカラムの名前に特殊文字が含まれる場合、データプロビジョニングタスクが失敗する。
EIC-23739	Blaze エンジン上でデータドメイン検出を実行する際に、ソースデータオブジェクトに 1000 を超えるカラムがある場合、データドメイン検出が失敗する。
EIC-23734	Spark エンジン上でカラムプロファイルとデータドメイン検出を実行する際、リソースの 1 つ以上のカラムに一意の値が含まれる場合、データドメイン検出に長い時間がかかる。
EIC-23609	リーフノードがシードアセットに間接的にリンクされている場合、図表示に不正確なリネージュ情報が表示される。
EIC-23559	図表示にリネージュフィルタを適用した後、 【リネージュおよび影響】 スライダが期待どおりに機能しない。
EIC-23394	Enterprise Data Catalog に、 データソースの変更の追跡用 に構成されている Informatica Data Quality リソースの通知が表示されない。
EIC-23297	参照リソースのデータ所有者、データスチュワードおよび対象事項の専門家が、リソース内のデータ要素およびデータオブジェクトを認証できない。
EIC-23291	カラムまたはフィールドアセットの名前にスペースが含まれる場合、データプロビジョニングタスクが失敗する。
EIC-23286	【アセットが存在するかどうか】 オプションを使用して Azure Data Lake Store Gen2 接続タイプのデータプロビジョニングタスクを作成する場合、Enterprise Data Catalog はデータを既存のファイルに追加するかわりに、区切りファイル内のデータを置換する。
EIC-23170	【新規アセットの作成】 フィールドで既存のアセット名をターゲットアセット名として指定して、Oracle 接続タイプのデータプロビジョニングタスクを作成する場合、Enterprise Data Catalog はデータを置換するかわりに、データをテーブルに追加する。
EIC-23021	ストリーミングマッピングでフラットファイルがルックアップとして使用されている場合、Enterprise Data Catalog でリネージュカラムを表示できない。

バグ	説明
EIC-22520	次の条件に該当する場合、エクスポートされた CSV ファイルで推測またはキュレートされた一意のキーを表示できない。 1. Catalog Administrator で、リソースを実行して一意のキー推測を検出する場合。 2. カタログで、[リソースオーバー] タブまたは [アセットオーバー] タブからローカルマシンに結果をエクスポートする場合。
EIC-22381	カタログで、アセットのシノニムを使用してアセットを検索できない。この問題は、シノニム定義ファイルでシノニム値をキャメルケースのアセット名に割り当てた場合に発生する。
EIC-22265	Catalog Administrator でリソースを開いたり保存したりするのに、予想よりも多くの時間がかかる。
EIC-22069	シードアセットをドリルダウンして子アセットを表示した後、[リネージュおよび影響] タブにリネージュおよび影響の情報が表示されない。この問題は、PowerBI リソースのアセットで発生する。
EIC-21732	Catalog Administrator で、[メタデータのロード設定] タブの [一意のキー推測設定] セクションで [承認または文書化された一意のキーが存在する場合、一意のキー推測をスキップ] プロパティを有効にした場合、文書化または承認されたキーを含むテーブルをスキップできない。 回避策: 1. Catalog Administrator でリソースを作成し、[メタデータのロード設定] タブで [ソースメタデータ] および [一意のキー推測] プロパティを有効にします。 2. リソースを実行します。最初の実行では、文書化または承認された一意のキーを含むテーブルはスキップされません。 3. 文書化または承認された一意のキーを含むテーブルをスキップするには、リソースを複数回実行します。
EIC-21462	Microsoft Power BI リソースについて、Enterprise Data Catalog の [アセットの来歴サマリ] タブに重複するアセット名およびパスが表示される。
EIC-20901	リネージュに 50,000 を超えるアセットが含まれる場合、詳細なリネージュを開けない。
EIC-20598	従来の SQL クエリではなく標準の SQL クエリを使用する Google BigQuery で作成されたビューでプロファイルを実行すると、プロファイルの実行が失敗する。
EIC-18905	HDFS で既存のクラスタのサービスクラスタ名ディレクトリに対してイレージャーコーディングが有効化されている場合、カタログサービスは起動に失敗する。
EIC-15862	カタログサービスが実行されるノードで間違った Java バージョンがインストールされている場合、埋め込みクラスタでカタログサービスは起動に失敗する。 回避策: ノードにインストールされている Java バージョンが、Enterprise Data Catalog でサポートされていることを確認してください。

プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項（10.4.0）

以下の表に既知の制限事項を示します。

バグ	説明
IDE-4374	Spark エンジンでプロファイルを実行した後、すべてのデータ型をドリルダウンできない。
IDE-4370	Spark エンジンでプロファイルを実行するときに、サマリビューにデータドメイン検出結果を表示できない。
IDE-4194	array データ型などの複合データを含む Hive データソースで、プロファイルの実行が失敗する。

Enterprise Data Preparation の既知の制限事項（10.4.0）

以下の表に 10.4.0 で見つかった既知の制限事項を示します。

バグ	説明
IDL-15222	Azure Data Lake Storage Gen2 の場所に配列を含む Avro ファイルをプレビューすると、次のエラーでプレビューが失敗する。 UPDATE_PREVIEW_FAILED java.sql.SQLException: 文の処理中にエラーが発生しました: FAILED: Hive 内部エラー: java.lang.OutOfMemoryError(Java heap space)
IDL-15132	バージョン 10.2.0 で作成されたワークシートをバージョン 10.4.0 にアップグレードすると、IF 条件式を含むカラムに警告が表示される。ワークシートをパブリッシュすると、カラムに NULL 値が含まれる。
IDL-14841	【マイアクティビティ】 ページにアクティビティデータの更新が表示されない。

サードパーティ製品に関する既知の制限事項（10.4.0）

以下の表に 10.4.0 で見つかった既知の制限事項を示します。

バグ	説明
IIS-3943	Azure Event Hub にプッシュされたレコード数がパーティションの数の約 2000 倍である場合、Azure Databricks で Spark ジョブが応答を停止する。 Microsoft Azure チケットの参照番号: 119102223001129。
BDM-29695	エンタープライズセキュリティパッケージを使用した Azure HDInsight クラスタで、Administrator ツールまたはコマンドラインインタフェースから集計ログをダウンロードできない。 Microsoft Azure チケットの参照番号: 119101823000681
BDM-29396	高並行処理の Spark マッピングが、次のようなエラーで失敗する。 java.lang.RuntimeException: java.io.IOException: java.lang.reflect.UndeclaredThrowableException Cloudera チケットの番号: 621563。

累積的な既知の制限事項

このセクションでは、前のリリースから引き継がれた既知の制限事項を示します。

アプリケーションサービスの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
OCON-19438	メタデータアクセスサービスが長時間にわたって非アクティブな状態で、Hive、HBase、MapR-DB、または複合ファイルのデータオブジェクトをインポートしようとした場合、インポートが次のエラーで失敗する。 <code>java.util.concurrent.RejectedExecutionException</code> 回避策: メタデータアクセスサービスを再起動して、オブジェクトを再びインポートする。
OCON-13257	Hadoop クラスタから複合ファイルオブジェクト、HBase オブジェクト、または Hive オブジェクトをインポートする場合、ドメインおよびメタデータアクセスサービスで Kerberos 認証を使用すると、メタデータのインポートが失敗する。 回避策: Informatica グローバルカスタマサポートにご連絡ください。
BDM-19611	JMX サーバーでリスニングポートのランダム選択を使用すると、脆弱性が発生する。 JMX サーバーが起動すると、要求をリスンするポートがランダムに選択され、ドメインの再起動のたびにランダムポートが再選択されます。このため、管理者はこのポートについて事前に認識できず、ドメインを再起動するたびにセキュリティ対策を手動で適用する必要があります。 回避策: この問題を解決するには、 <code>netstat</code> などのユーティリティを使用して開いているポートを特定し、IP アドレスフィルタを設定するなどのセキュリティ対策を適用します。 注: ノードプロセスやサービスプロセスを再起動するときは、この手順を繰り返す必要があります。

Business Glossary の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
BG-1828	<p>Google Chrome および Microsoft Edge ブラウザを使用すると、Analyst ツールのリッチテキストフィールドに画像を追加できない。この問題は、Informatica セキュリティチームが適用した Content Security Policy ヘッダが原因で発生します。</p> <p>回避策:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. INFA_HOME/services/AnalystService に移動します。 2. Analyst ツールに追加する画像用のフォルダを作成します。 3. フォルダ内に画像を保存します。画像の名前にスペースを使用していないことを確認します。 4. Google Chrome または Microsoft Edge ブラウザを開きます。 5. Analyst ツールの URL を入力します。例えば、<AT Host>:<AT Port>/Folder Name/Image Name 6. URL から画像をコピーします。 7. Analyst ツールのリッチテキストフィールドに画像を追加します。
BG-1810	<p>次の条件が当てはまる場合、用語集のエクスポートが失敗する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2 つ以上のカテゴリを含む用語集を作成する。 2. 2 つのカテゴリ内に用語を作成する。 3. カテゴリなしの用語を複数作成する。 4. [ライブラリ] ワークスペースから、エクスポートする用語集を選択する。 5. エクスポートウィザードの [アセットの選択] ページで [カテゴリなしのアセット] オプションを選択する。 <p>回避策: エクスポートプロセス時にすべてのカテゴリを選択します。</p>
BG-1801	<p>Business Glossary Desktop の検索結果数が Analyst ツールの検索結果数と一致しない。この問題は、検索結果数が 500 件を超える場合に発生します。</p>
BG-1757	<p>【特権および役割の追加】 ウィザードで、アンパサンド記号 (&) を含む用語集名を検索できない。例えば、「Systems & Products」という名前の用語集。</p> <p>回避策: アンパサンド記号 (&) の代わりに&amp;を使用して、用語集を検索します。例えば、Systems &amp;Products。</p>
BG-1516	<p>ビジネス用語ビューの 【関連するアセット】 セクションで、データアセット、ルールアセット、プロファイルなどのプロパティをソートできない。</p>
BG-1447	<p>用語集テンプレートを編集し、[用語集] タブをバックグラウンドで開いたままにすると、このテンプレートは編集できなくなる。[保存して完了] をクリックすると、変更を保存できないことを示すエラーメッセージが表示される。</p>

Data Engineering Integration の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
BDM-23550	アップデーストラテジトランスフォーメーションに、挿入操作、更新操作、または削除操作と JDBC ターゲットが含まれていると、Spark イベントの挿入された行、更新された行、または削除された行の数が誤って表示される。
BDM-23392	Spark で実行されるマッピングがアップデーストラテジトランスフォーメーションを使用していると、テーブル制約により BatchUpdateException が発生し、マッピングが失敗する可能性がある。 回避策: マッピングのランタイムプロパティの Spark.JdbcNumPartition 設定を編集して、パーティションの数を 1 に減らします。これにより、すべての行が単一パーティションとして処理されます。
BDM-23317	ファイルベースのキューを使用して設定されたデータ統合サービスの統計を監視すると、ジョブがキューに追加された状態でも、ジョブが実行されているように誤って表示される。
BDM-22490	Spark で実行される動的マッピングがアップデーストラテジトランスフォーメーションを使用している場合、Hive ターゲットテーブルスキーマにカラムを追加するとマッピングが失敗する。
BDM-20856	クラスタワークフローをインポートするときに、クラスタの作成タスクに関連付けられていた非ネイティブ接続を選択するためのオプションがインポートウィザードに含まれていない。 回避策: ワークフローをインポートした後に、クラスタの作成タスクに Databricks 接続または Hadoop 接続を手動で割り当てます。
BDM-20697	Spark エンジンで実行されるマッピングで numberOfErrorRows システム定義マッピング出力を使用すると、エンジンがマッピング出力に正しくない値を返す。

Data Engineering Streaming の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
IIS-2761	同じフラットファイルデータオブジェクトに対する複数のルックアップがマッピングに含まれていると、Developer tool または Administrator ツールで Spark の実行プランを表示できない。 回避策: パイプライン内の各ルックアップトランスフォーメーションについて、同じ物理ソース上に物理データオブジェクトを作成します。

Enterprise Data Catalog の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
EIC-8187	Catalog Administrator の 1 つのリソースに対して読み取りおよび書き込み権限を持つユーザーを設定すると、Enterprise Data Catalog のユーザー検索ページには 1 つのカウントではなく、合計リソース数が表示される。
EIC-8171	Informatica Axon リソースを削除すると、Enterprise Data Catalog では、アセットに割り当てられているカスタム属性がカタログから削除されない。
EIC-8127	アンダースコア (_) を含むアセット名を検索すると、検索結果ページは結果を返さない。
EIC-7622	カスタムメタデータリソースは、ビジネスインテリジェンスメタデータソースの接続パラメータを抽出しない。
EIC-7583	relationships REST API は、同じクエリで異なる levelCount の詳細を返す。
EIC-7406	リソースに使用される再利用可能な構成で誤った詳細を修正しても、その変更はリソースに反映されない。
EIC-7405	整数のカスタム属性では、スライダフィルタを使用して負の値を選択できない。 回避策: 範囲に基づくフィルタを許可するようカスタム属性を設定します。
EIC-3288	データソース内のカラムにデータが含まれていない場合、類似性検出システムリソースがカラム名に基づいてカラムを検出しない。
EIC-19237	シノニムを検索した場合、カタログに誤った結果が表示される。
EIC-19106	Catalog Administrator で、Oracle および Microsoft SQL Server リソースを含めてすべてのリソースの 【データプロビジョニング】 タブを閲覧できる。
EIC-18905	HDFS クラスタでイレージャーコーディングを有効にしている場合、カタログサービスが開始しない。
EIC-1837	リレーション図にシノニムが表示されない。
EIC-1835	シノニムの 【アセットの詳細】 ビューでは、 【次を含む】 パネルに、カラムだけでなく、カラムとともにソース修飾子とマッピングアセットが表示される。
EIC-15657	Enterprise Data Catalog で、REST API を使用してユニバーサル接続フレームワーク (UCF) リソースを作成できる。しかし、このリソースを編集できない。 回避策: UCF ライセンスについてグローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
EIC-14761	Enterprise Data Catalog でシノニムアセットの 【変更概要】 に正しくない通知メッセージが表示されることがある。
EIC-14746	ユーザーがストアドプロシージャのビジネスタイトルの関連付けまたは削除を行ったときに、Enterprise Data Catalog が通知メッセージを送信しない。この問題は、ストアドプロシージャアセットのエンリッチメント変更をフォローしている場合に発生する。
EIC-14668	Catalog Administrator で、リソースの作成中にリソース内のすべてのアセットに関係者の値をプロパゲートすると、 【リレーション】 タブにアセットの正しくない情報が表示される。

バグ	説明
EIC-14590	Catalog Administrator で、[管理] メニューに 【再利用可能な設定】 オプションが表示されない。この問題は、Microsoft Internet Explorer バージョン 11.1446 を使用している場合にのみ発生する。
EIC-14452	Enterprise Data Catalog で、ユーザー名に漢字が含まれている場合に、ユーザーがアセットに関するレビューの提供、質問、または質問への回答ができない。
EIC-14429	アセットのビジネスタイトルを更新した後も、Enterprise Data Catalog に以前に割り当てたビジネスタイトルが表示されることがある。
EIC-14406	Enterprise Data Catalog で、検索結果ページにアセットのパスが表示されない。この問題は、検索ボックスでキーワード「column contains」に続けてアセット名を指定してコラムアセットを検索した場合に発生する。
EIC-14374	アセットの説明を削除すると、Enterprise Data Catalog に正しくない通知メッセージが表示される。
EIC-14183	【フォローされたアセット】 ページの 【リソース名】 フィルタオプションが想定どおりに機能しない。
EIC-14140	アセットのコラボレーションの変更をフォローした場合に、Enterprise Data Catalog が通知メッセージを送信しないことがある。
EIC-14127	【通知】 ページの 【アセット名】 フィールドで、アセット名の後にパーセント記号 (%) を入力すると、Enterprise Data Catalog が予期せず停止する。
EIC-13718	【リレーション】 タブのフィルタが想定どおりに機能しない。
EIC-13708	Enterprise Data Catalog が、Google BigQuery ソースとの無効なデータマッピングを含む Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) メタデータソースからメタデータまたはリネージュ情報を抽出しない。Google BigQuery と IICS の間の無効なマッピングは、IICS が Google BigQuery の numeric データ型をサポートしていないことが原因である。
EIC-13614	質問を削除すると、Enterprise Data Catalog に正しくない通知メッセージが表示される。
EIC-13577	リソースとアセットにデータ所有者を割り当てると、データ所有者間でユーザーロールと特権の競合が発生する。
EIC-13418	リソースのページ操作をキャンセルできない。
EIC-13285 および EIC-13181	Enterprise Data Catalog で、ARRAY、UNNEST、CODE_POINTS_TO_BYTES、RANK、GROUP EACH BY、および CODE_POINTS_TO_STRING などの、高度な Google BigQuery の関数と構文を含むビューのリネージュが表示されない。
EIC-13271	次の条件が当てはまる場合に、Google BigQuery テーブルで作成されたビューのリネージュを表示できない。 1. Google BigQuery プロジェクトでテーブルを作成し、そのテーブルのリソースを作成する。 2. 別の Google BigQuery プロジェクトでテーブルのビューを作成し、そのビューのリソースを作成する。 3. 両方のリソースを実行する。 4. ビューのリネージュを生成する。
EIC-13164	フォローしているアセットに CSV ファイルが追加されたときに、 【通知】 ページに通知メッセージが表示されない。

バグ	説明
EIC-13142	アセット名に漢字または UTF-8 文字が含まれていると、アセットに関係者を割り当てられない。
EIC-13114	カラムレベルでリネージュを表示するためにドリルダウンすると、シノニムアセットのリネージュ図が予期せずハングする。
EIC-13002	ビジネス用語集リソースから関連付けられたビジネス用語集を削除しても、Enterprise Data Catalog の検索結果から関連付けられたビジネス用語集の用語が削除されない。この問題は、Business Glossary と Axon のリソースタイプで発生する。
EIC-12990	名前に特殊文字が含まれているアセットに変更を加えた場合に、Enterprise Data Catalog が通知メッセージを送信しない。
EIC-12985	Microsoft Internet Explorer バージョン 11.1446 で、Catalog Administrator と Enterprise Data Catalog が予期せず停止する。この問題は、Catalog Administrator でカスタム属性を作成し、Enterprise Data Catalog でアセットにカスタム属性値を割り当てると発生する。
EIC-11572	Workday リソースタイプを使用してカタログに抽出されたいくつかのデータソースとレポートを検索すると、Enterprise Data Catalog の検索結果にアセットが表示されない。 回避策: Enterprise Data Catalog で検索を実行するときに、検索文字列を二重引用符 (" ") で囲みます。

Enterprise Data Preparation の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
IDL-3189	Azure SQL Data Warehouse からデータをインポートするかデータをプレビューすると、操作は失敗する。

Informatica コネクタツールキットの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
OCON-14607	Informatica コネクタツールキットを使用して PowerCenter アダプタを作成すると、ソースのカラム名に特殊文字が含まれることがある。ただし、PowerCenter Designer でカラムをインポートした後も、カラム名に特殊文字が表示され、マッピングが失敗する。
OCON-13507	フィルタ条件を設定して、String データ型ではないフィールドをパラメータ化すると、以下のエラーメッセージが表示される。 Enter a value of data type : Integer
OCON-12759	Informatica コネクタツールキットを使用して PowerCenter アダプタを作成し、ソースオブジェクトを再インポートすると、オブジェクトのビジネス名が PowerCenter Designer に表示されない。

マッピングおよびワークフローの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
MWF-1478	ワークフローの複数インスタンスを同時に連続して実行した場合に、いくつかのワークフローが強制終了の状態になることがある。この問題は、単一ワークフローの 180 個のインスタンスが、データ統合サービスのメモリヒープ割り当てがデフォルトの状態、周期的に 100 回実行されたときに発生します。
MWF-1430	システムパラメータ sys:ApplicationName または sys:MappingName をワークフロー内のマッピングタスク入力に割り当てると、マッピングタスク入力パラメータがシステムパラメータ値を読み取らない。その代わりに、マッピングタスク入力パラメータは、実行時にマッピングパラメータのデフォルト値を読み取ります。
MWF-1414	ワークフローの実行中にデータ統合サービスが再起動すると、Monitoring ツールでワークフローがキャンセル済み状態になったことが報告されない場合がある。 この問題は、ドメインが、ワークフローメタデータを格納し、ワークフローを監視するために、異なるモデルリポジトリサービスを使用している場合に発生することがある。
MWF-1340	ワークフローに並列マッピングタスクが含まれていて、マッピングタスクの実行中にワークフローをキャンセルすると、まだ開始していないマッピングが実行される。 この問題は以下の条件が当てはまる場合に発生する。 <ul style="list-style-type: none">- マッピングタスクが指定するマッピングの数が、データ統合サービスの「最大ワーカースレッド」の値を超えている。- 「最大ワーカースレッド」の値で指定されるマッピングが実行中で、他のマッピングまだ実行されていないときに、ワークフローをキャンセルした。 回避策: 「最大ワーカースレッド」の値を増やします。

Metadata Manager の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
MM-3658	Metadata Manager で SAML 認証を使用すると、LDAP ユーザー名とパスワードを使用してビジネス用語集リソースを作成するときにエラーが発生する。
MM-3640	Microsoft SQL Server Analysis Services リソースが共有データセットを使用していると、Microsoft SQL Server Reporting Services リソースと Microsoft SQL Server Analysis Services リソースとの間にリネージュが表示されない。
MM-3611	カラムに表形式および多次元モデルの【測定】オプションを指定すると、Microsoft SQL Server Reporting Services リソースと Microsoft SQL Server Analysis Services リソースとの間にリネージュが表示されない。
MM-3430	以下の条件が当てはまる場合、「カタログに<object>が見つかりません」というエラーが表示される。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Microsoft SQL Server リソースを作成する。このリソースに特殊文字を使用した 1 つ以上のテーブル名および外部キー制約名が含まれている。 2. リソースをロードする。 3. 【参照】 > 【カタログ】 ビューで、SQLServer Foreign クラスに移動し、外部キー制約を選択する。 4. 【関連するカタログオブジェクト】 セクションで、オブジェクト名をクリックする。
MM-3420	以下の条件が当てはまる場合、ビジネス用語集ユーザーアカウントがロックされる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Informatica Administrator で、ネイティブユーザーにアカウントロックアウト設定を有効にするか、ロックアウトポリシーが適用される LDAP ユーザーをインポート済みである。 2. Metadata Manager で、認証が必要なビジネス用語集リソースにアクションを実行する。例えば、ビジネス用語集リソース用の列挙型ファイルをアップロードまたは削除するか、ビジネス用語集リソースの再ロードを実行する。
MM-3399	以下の条件が当てはまる場合、Analyst ツールでビジネス用語リンクが削除される。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス用語にリンクされている Oracle リソースでカラムを削除する。 2. Metadata Manager で、Oracle リソースを再ロードする。
MM-3396	以下の条件が当てはまる場合、Metadata Manager および Analyst ツールで、Oracle リソースとビジネス用語集リソースとの間のリネージュが削除されない。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Metadata Manager で、カラム名とビジネス用語が同一の Oracle リソースをロードする。 2. そのビジネス用語を含むビジネス用語集リソースにルールベースのリンクファイルをアップロードし、このリソースをロードする。 3. ビジネス用語集リソースのルールベースのリンクファイルを削除して、リソースを再ロードする。
MM-3204	次のリソースに対して rmu コマンドを実行すると、リソースの移行が失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - ERwin (Deprecated_10.0.0) - Cognos (Deprecated_10.0.0) - JDBC (Deprecated_10.0.0) - Microsoft SQL Server 統合サービス (Deprecated_10.0.0) - SAP PowerDesigner (Deprecated_10.0.0) リソース
MM-3117	Oracle Business Intelligence Enterprise Edition (OBIEE) リソースをロードすると、OBIEE 12 のビジュアルアナライザでマッシュアップレポートを作成した後、ロードログに Extended Subject Area (XSA) フィールドの警告が表示される。OBIEE 12 で Microsoft Excel のカラムとサンプルのサブジェクト要素を結合するときにマッシュアップレポートが作成される。

バグ	説明
MM-2927	Analyst ツールで用語のアセットリンクを削除し、関連付けられたビジネス用語集リソースを Metadata Manager で再ロードすると、[関連付けられたカタログオブジェクト] セクションでビジネス用語が更新されない。
MM-2921	Metadata Manager は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 12 用のビジュアルアナライザプロジェクトの抽出をサポートしない。
MM-2344	SQL オーバーライドを使用したマッピングが含まれる Informatica Platform リソースをロードすると、Metadata Manager によって、SQL クエリの解析やクエリと関連付けられたリンクの生成が行われない。

プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
IDE-3693	次の条件が当てはまる場合に、Analyst ツールで Date データ型のカラムでのドリルダウンが失敗する。 1. プロファイリングウェアハウス用に Oracle JDBC 接続を選択する。 2. ソースに接続してテーブルをインポートするために JDBC 接続を選択する。 3. テーブルでカラムプロファイルを作成して実行する。
IDE-2695	Developer tool では、論理データオブジェクトにカラムプロファイルを作成し、そのプロファイルにフィルタを追加すると、フィルタプレビューが表示されない。
IDE-2500	次のいずれかの条件に該当する場合、論理データオブジェクトのカラムプロファイルの実行が失敗する。 - プッシュダウンの最適化が、論理データオブジェクトに対して失敗する。この問題は、IBM DB2 および Oracle データソースを除くデータソースで作成する論理データオブジェクトに対して発生します。 - データベースの照合が latin1_general_bin に設定されない。

サードパーティ製品に関する既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
PLAT-14849	AIX オペレーティングシステムでは、AIX の SAP HANA データベースとの安全な通信を SSL プロトコルで有効にすると、マッピングが予期せず終了する。 SAP チケットの参照番号: 0001101086 (410495)
PLAT-14796	MySQL テーブル名に特殊文字が含まれていると、Developer tool でカラムが一部インポートされない。この問題は、DataDirect ODBC および JDBC ドライバを使用してメタデータをインポートする場合に発生します。(395943) DataDirect チケットの参照番号: 00322369

バグ	説明
PLAT-14658	精度が 38 桁の Decimal データ型の SAP HANA データベースのデータをプレビューすると、データプレビューが継続的に実行され、マッピングを実行すると、エラーで失敗する。(414220) SAP チケットの参照番号: 0000624569 2015 (414220)
PLAT-14653	Timestamp with Time Zone データ型のメタデータをインポートすると、このデータ型のスケールが 6 ではなく 0 として表示される。 DataDirect の参照番号: 00310850 (413119)
OCON-9943	Netezza データベースから時間データをインポートするように Sqoop を構成すると、マッピングが失敗する。 Apache チケットの参照番号: SQOOP-2978
OCON-9881	Sqoop を使用して Oracle にデータをエクスポートする場合に、カラムに大文字小文字が混在していると、マッピングが失敗する。この問題は、Cloudera クラスタでマッピングを実行するときに発生する。
OCON-9377	Sqoop を構成し、Cloudera クラスタでマッピングを実行している Teradata Parallel Transporter を実行して、Byte または Varbyte データ型のデータを Teradata のターゲットにエクスポートすると、Blaze エンジンでマッピングは失敗する。
OCON-9376	Blob または Clob データ型のデータを Teradata ターゲットにエクスポートするように Sqoop を構成すると、Spark エンジンで TDCH マッピングが失敗する。
OCON-8850	Timestamp データ型のデータを Hive ソースから Microsoft Azure SQL データウェアハウスターゲットにエクスポートするよう Sqoop を構成している場合、マッピングは失敗する。
OCON-8786	Clob または DBClob データ型のデータを IBM DB2 z/OS ターゲットにエクスポートするように Sqoop を構成すると、マッピングが失敗する。
OCON-8779	Real データ型のデータを IBM DB2 z/OS ターゲットにエクスポートするように Sqoop を構成すると、マッピングは失敗する。
OCON-8561	Money データ型のデータを Microsoft SQL Server ターゲットにエクスポートするように Sqoop を構成すると、マッピングが失敗する。
OCON-8387	TDCH と Sqoop を構成し、Blaze または Spark エンジンでマッピングを実行して Time データ型のデータをエクスポートすると、ミリ秒のみがターゲットに書き込まれる。ナノ秒の部分は切り捨てられる。 Cloudera チケットの参照番号: 124306
OCON-8332	Clob または DBClob データ型のデータを IBM DB2 ターゲットにエクスポートしている場合、マッピングが失敗する。
OCON-7974	Sqoop を構成し、カラム名にスペースが含まれている場合、マッピングが失敗する。 Apache チケットの参照番号: SQOOP-2737
OCON-7687	Sqoop を通じてデータをエクスポートし、カラムに大文字小文字が混在している場合、マッピングは失敗する。

バグ	説明
OCON-7669	Sqoop と OraOop を構成し、テーブル名に大文字小文字が混在する Oracle ターゲットにデータをエクスポートすると、マッピングが失敗する。 回避策: 汎用 Oracle JDBC ドライバを使用してデータをエクスポートします。
OCON-7620	Sqoop を使用して IBM DB2 ソースからデータをインポートし、テーブル名に大文字小文字が混在していると、マッピングが失敗する。Sqoop JIRA 問題番号: SQOOP-3211
OCON-7505	Teradata ソースから byte または varbyte データを読み取り、それを Teradata ターゲットに書き込む Sqoop マッピングが、Blaze エンジンで失敗する。この問題は、Cloudera Connector Powered by Teradata を使用している場合に発生する。 Cloudera チケットの参照番号: 124305
OCON-7504	Sqoop を使用して、Teradata ソースからの Timestamp データ型のデータを読み取り、それを Teradata ターゲットに書き込むと、ターゲットにはミリ秒しか書き込まれない。この問題は、Cloudera クラスタおよび Blaze エンジンで Teradata Parallel Transporter マッピングを実行した場合に発生する。 Cloudera チケットの参照番号: 124302
OCON-7503	Sqoop を使用して Teradata ソースから時間データを読み取り、それを Teradata ターゲットに書き込むと、小数の秒数が破損する。この問題は、Cloudera Connector Powered by Teradata または Hortonworks Connector for Teradata を使用し、Blaze エンジンでマッピングを実行した場合に発生する。 Cloudera チケットの参照番号: 124306
OCON-7459	次のすべての条件に該当する場合、Sqoop を通じて IBM DB2 ターゲットにデータをエクスポートすると、マッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - 実行時に IBM DB2 ターゲットテーブルを作成または置換する。 - IBM DB2 ターゲットテーブル名またはカラム名に大文字小文字が混在している。 - Cloudera 5u8 クラスタでマッピングを実行する。 Apache チケットの参照番号: SQOOP-3212
OCON-7431	Teradata ソースから時間データを読み取り、それを Teradata ターゲットに書き込むと、小数の秒数が破損する。この問題は、Hortonworks クラスタおよび Blaze エンジンで Teradata Parallel Transporter マッピングを実行した場合に発生する。 Cloudera チケットの参照番号: 124302
OCON-7219	Blaze エンジンで Sqoop マッピングを実行し、Teradata 浮動小数データをエクスポートすると、小数点の後のデータが切り捨てられる。 Cloudera サポートチケット番号: 113716
OCON-7216	Sqoop ソースまたはターゲットに二重引用符が使用されたカラム名が含まれていると、マッピングが Blaze エンジンで失敗する。ただし、Blaze ジョブ監視ではマッピングが正常に実行され、行がターゲットに書き込まれたと誤って示される。
OCON-7214	Order By 句を含むカスタムクエリを使用してデータをインポートすると、Blaze エンジンで Sqoop マッピングが失敗する。 Sqoop JIRA 問題番号: SQOOP-3064
OCON-7213	データをエクスポートして、Blaze または Spark エンジンでマッピングを実行したときに、Sqoop プログラムが --num-mappers 引数と -m 引数を受け入れない。 Sqoop JIRA 問題番号: SQOOP-2837

バグ	説明
OCON-7212	ターゲットに接続されていないポートがある場合、Blaze エンジンで Sqoop マッピングは失敗する。この問題は、Cloudera クラスタ以外のクラスタで Sqoop マッピングを実行した場合に起こる。 回避策: マッピングを実行する前に、接続されたポートに対応するカラムでターゲットデータベース内にテーブルを作成します。
OCON-7211	Sqoop マッピングを実行し、Azure でホストされている Microsoft SQL Server データベースとの間でデータのインポートやエクスポートを行うと、マッピングが失敗する。 Sqoop JIRA 問題番号: SQOOP-2349
OCON-7205	Blaze エンジンで Sqoop マッピングを実行して、Netezza から Numeric データ型のデータをエクスポートすると、データの位取り部分が切り捨てられる。
OCON-2847	ソースデータベースに対して TLS 暗号化が有効になり、Metadata Manager リポジトリが Microsoft SQL Server データベースで、TLS 暗号化が有効になっている場合、Microsoft SQL Server リソースをロードできない。(452471) Data Direct の事例番号: 00343832
OCON-21568	ADLS Gen2 をストレージとして使用する Azure HDInsight クラスタで Sqoop マッピングを実行すると、Spark エンジンでマッピングが失敗する。 Microsoft チケットの参照番号: 119081323000763
OCON-19506	Spark エンジンで、データを Google Cloud Storage フラットファイルターゲットに書き込むマッピングを実行し、データサイズが 750 MB を超えていると、Google Cloud Storage での一時的なエラーにより、複数の Spark ジョブが失敗する。ただし、マッピングは正常に実行され、次のエラーが表示される。 java.io.IOException: java.io.IOException: Write end dead
OCON-19488	Sqoop Hortonworks Connector for Teradata を使用して、Hortonworks HDP 3.1 クラスタの Blaze または Spark エンジンで Teradata マッピングを実行すると、マッピングが失敗する。
OCON-17245	Azure HDInsight 3.6 ADLS クラスタで Sqoop マッピングを実行すると、Blaze エンジンでマッピングが失敗する。 Microsoft チケットの参照番号: 118121026003203
OCON-14861	Microsoft SQL Server 接続の NTLM 認証を使用して、Linux にホストされている Microsoft SQL Server 2017 へ接続すると、以下のエラーで接続が失敗する。 Login failed.The login is from an untrusted domain and cannot be used with Integrated authentication. DataDirect チケットの参照番号: 00448019
OCON-14398	Microsoft SQL Server 接続を使用して、Microsoft Azure SQL Database に大量のデータをバルクモードで書き込むと、セッションのパフォーマンスが低下する。 DataDirect チケットの参照番号: 00421602
OCON-14296	Microsoft SQL Server 接続を使用し、複数パーティションを構成して、Microsoft Azure SQL Database に大量のデータを書き込むと、セッションのパフォーマンスが低下する。 Microsoft チケットの参照番号: 118062518450002
IIS-3381	Hortonworks HDP 3.1 クラスタで、Spark エンジンが文字列データ型をバイナリデータ型に誤って変換する。 Hortonworks チケットの参照番号: 270

バグ	説明
IDE-1677	MapR 4.0.2 Yarn または MapR 4.0.2 classic Hadoop ディストリビューションファイルで複数のデータドメインが含まれるデータドメイン検出プロファイルを実行すると、プロファイル実行が失敗する。(448529)
BDM-28598	同等の精度と位取りで設定されている 10 進型ポートで Spark エンジンがゼロの入力値を処理するときに、エンジンがその値をデータオーバーフローとして扱い、Hortonworks HDP 3.1 クラスタで戻り値が NULL になる。 Cloudera チケットの参照番号: 635063
BDM-25513	Spark エンジンで実行される、Hive ACID ソース/ターゲットテーブルを使用するマッピングがある場合、サマリ統計ビューに mapping job のスループット統計がまったく反映されない。 Cloudera チケットの参照番号: 00225986
BDM-25490 BDM-25491	Hortonworks HDP 3.1 クラスタで実行されるマッピングがアップデイトストラテジトランスフォーメーションを使用しており、Hive Warehouse Connector が有効化されている場合、マッピングが DD_INSERT でマークされた行に誤ったデータを書き込む。 Cloudera チケットの参照番号: 00228458
BDM-24885	Blaze エンジン上、および Ranger KMS 認証を使用する Hortonworks HDP 3.1 クラスタ上で Sqoop マッピング、Amazon S3 マッピング、または Amazon Redshift マッピングを実行する場合、マッピングが次のエラーで失敗する。 org.apache.hadoop.security.authentication.client.AuthenticationException: GSSException: No valid credentials provided (Mechanism level: Attempt to obtain new INITIATE credentials failed! (null)) Hortonworks HDP チケットの参照番号: 00230890
BDM-23420	デフォルト値に Datetime データが含まれるソータートランスフォーメーションを使用するマッピングを MapR クラスタで実行すると、マッピングがデータを変更する。 MapR チケットの参照番号: 00072094
BDM-23104	Hadoop ディストリビューションが MapR のときに、Spark エンジンがバケット化された Hive ターゲットにデータを書き込めない。 MapR の事例番号: 00074338
BDM-21486	マッピングが Azure HDInsight クラスタで実行されている場合、Hive ソースの Date/Time カラムで SQL オーバーライドを使用すると、マッピングが失敗する。 Apache Hive チケットの参照番号: HIVE-12200
BDM-17020	Avro ファイルでスキーマを使用するマッピングを実行すると、Spark エンジンがスキーマ内のプリミティブデータ型に NULL データ型を追加する。
BDM-14422	Hive テーブルのカラムが重複しているため、マッピングに失敗し、Spark エンジンでエラーが発生する。 SPARK-23519
BDM-14410	Spark エンジンが空の ORC Hive ソースから読み取れないため、マッピングが失敗する。 SPARK-19809

バグ	説明
BDM-10570	リレーショナルデータを階層データに変換するマッピングに 4 つ以上のアグリゲータトランスフォーメーションとジョイナトランスフォーメーションが含まれている場合、Spark ジョブはメモリ不足エラーで失敗する。 回避策: リレーショナルデータを 4 つを超えるレベルの階層データに変換するには、中間データをステージングするために複数のマッピングを作成します。例えば、リレーショナルデータを 3 つのレベルまでの階層データに変換するマッピングを作成します。別のマッピングでこの階層データを使用して、4 つのレベルの階層データを生成します。 SPARK-22207
BDM-10455	Tez で Hive を実行エンジンとして使用すると、バケット化されたテーブルへの挿入が失敗することがある。この問題は、テーブルが Hive ACID テーブルで、挿入前に削除操作が実行されている場合に起こりやすい。 Apache チケットの参照番号: TEZ-3814

10.4.0 に統合された緊急バグ修正

Informatica では、以前のリリースの緊急修正（EBF）をバージョン 10.4.0 に統合しました。これらの EBF では、以前のリリースで見つかった問題に対する修正を提供しています。

バージョン 10.4.0 に統合された EBF の一覧については、次の Informatica ナレッジベースの記事を参照してください: <https://kb.informatica.com/faq/7/Pages/24/608351.aspx>

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。